
真恋姫無双 死神の名を継ぐ者

紅夜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

真恋姫無双 死神の名を継ぐ者

【Nコード】

N2287Q

【作者名】

紅夜

【あらすじ】

旧名「伝説のモンスターと最強の死神」

5月20日タイトル変更しました

殺し屋として生きてきた少年が恋姫無双の世界へ転生する
そこで彼は、何のために戦い、何を守る？

翔「若干ウソ入って無いか？」

作者「何でもありがモットーだ」

翔「なるほど」

第零話 その男、黒宮翔！

とある町・・・

???

「ここかターゲットは・・・」

全身黒ずくめの少年はある家の前に立っていた・・・

???

「すぐに終わらせるか」

と言うと少年はアタッシュケースからスナイパーライフルを取り出し、構えたが・・・

???

「チツ、撃てる状況じゃないな」

少年はターゲットから、アンテナに向けて撃った

ダーン！

ターゲット

「何だよテレビがぶっ壊れたのかよ！」

ターゲットが外から当たる位地に着いた・・・

???

今だ！・・・

ダーン！

パリーン！

???

「任務完了」

ターゲットが死んだこと確認した少年はその場を去った・・・

少年の名前は黒宮翔くろみやしょう

表向きは普通の高校生しかし、裏は暗殺を仕事とする殺し屋なのである

そして、いつもの家に帰れるかと思った・・・
その時！

ギーー！

翔の目の前で子供がトラック引かれそうになった！

翔

「ガキ、あぶねえ！」

翔は子供を助けたがその代わり・・・

??????

翔

「うつ・・・ここは・・・」

???

「お主は一応生きてるのじゃ」

翔

「アンタは？」

???

「ワシは神様じゃ」

翔

「神様？閻魔様じゃなくて？」神様

「ハッハッハッ！お主は本来死ぬ運命では無いのじゃがお主が子供を助けたからの」

翔

「おい、ジジイ子供はどうなった？」

神様

「ワシにジジイは無いだろ」

ざっと見て神様は三十前半の人に見える

翔

「わかったからさっさ言え」

神様

「あの子供は無事じゃ」

翔

「良かった」

神様

「さて、お主にはある世界に行ってもらい七体のモンスターを封印しに行って貰う」

翔

「封印？おれなんかが出来るのか？」

神様

「お主は格闘、銃、刀など完ぺきだから大丈夫じゃ」

翔

「・・・わかった、どの世界へ行くんだ？」神様
「恋姫無双の世界じゃ」

翔

「恋姫無双？」

神様

「後、パートナーを呼んでおくから」

翔

「武器は？」

神様

「向こうで」

翔

「まさか・・・」

神様

「では、行ってくれじゃ」

その時、翔の足元に穴が現れ・・・

ヒューン

落ちた

翔

「ジジイ！ふざけんなよー！」

さて、は神様から七体のモンスターを封印する仕事を頼まれた翔
彼は転生した世界で任務を達成出来るのか？

オリキャラ（主人公）紹介（前書き）

翔「今回は俺の紹介だ」

オリキャラ（主人公）紹介

黒宮翔

任務の帰り道にトラックに引かれて死んだと思ったがジジイ（神様）が恋姫無双の世界にモンハンの伝説のモンスターが逃げ出したらしく、神様から封印して来てくれと頼まれた高校生
今までいろんな任務をしながら高校を過ごしてきた

仲間を大事にしてるが、それは転生前の世界で何かあったらしい・・

武器

太刀（天翔）

普通の太刀に翼や黒い布が鞘に装飾されている
片手で振り回す事も出来るが基本は両手で振る

籠手（天空）

両腕につける武器

かなり重そうに見えるが実はとても軽い
刀や弓矢を折れるくらい強い

脚籠（月影）

脚につける武器

普通は天空と一緒につける

木などを簡単に壊せる

天空とつける事で身体能力が跳ね上がる

姿

ガンダム00の刹那
ファーストシーズン

性格

若干クールだが仲間思いである

特徴

黒い服を纏い、天翔と天空と月影を常に装備してるが本人は天空と月影だけで十分らしい・・・

翔「なあ、天翔は外させてくれ」

作者「それは無理だ」

死神だって愚痴るんです・・・

頭は・・・まあまあかな

翔「まあまああって・・・」

作者「頭良すぎるのって嫌じゃん」

翔「勉強しろよ作者・・・」

人には優しいが、愛紗（関羽）には何か違う・・・

翔「なあ、作者これ違うよな？」

作者「いや、愛紗は俺の嫁だ」

翔（痛い人だな・・・）

作者「バカな人だとおもっただろ」

翔「えっ？ソナナコトオモッテナイヨ」

作者「・・・・・・」

彼が封印する伝説のモンスター

ミラボレアス

ミラバルカン

ミラルーツ

アカムトルム

ウカムルバス

?????

?????

の七体

翔「なあ、????もモンハンのモンスター？」

作者「まあネタバレな所も有るからな」

翔「封印出来る気がしないんだが・・・」

作者「まあ、大丈夫さ（笑）」

オリキャラ（主人公）紹介（後書き）

翔「なあ、俺強すぎる気がするんだが・・・」

作者「いや、まだまだ進化して行くよ、弱いから」

翔「もう、チートをしてるような気がする」

愛紗「それより私がいてよろしいのですか？」

翔「作者がいてくれて言うから良いんじゃない？」

愛紗「しかし作者殿が・・・」

作者「はあはあはあ・・・愛紗可愛すぎる！・・・」

翔「・・・イカれちまった」

作者「愛紗ー！愛してるぜー！」

愛紗「翔殿助けてくださいー！」

翔「まあいいか、楽しそうだし」

作者「さあ愛紗、俺と一緒に良いことしようぜ！」

愛紗「翔殿ー！」

翔「ガンバレ！」

愛紗「ちよつと、翔殿ー！」

作者「さあ逝こうぜ、あつ違った行こうぜ」

愛紗「うわーん！翔殿ー！」

その後愛紗は作者と・・・

翔「んな訳無いだろ俺が作者を・・・殺したから」

愛紗は大丈夫だったが・・・

作者「痛てゝ翔天空で殴るなよ」

まあ、こんな感じであとがきは毎回作者が暴走しますが皆様、ご感想をよろしく願います。

翔「後、作者を殺す方法や作者を地獄に陥れるイタズラをよろしく」
これからよろしく願います。

第一話 桃園の四人（前書き）

お待たせしました！

（ ）はキャラの心の声です

第一話 桃園の四人

????サイド

????「ほら、みんな早く」

????「お待ちください桃香様」

????「ゆつくり行こうぜ桃香、山賊がいるかもしれんじゃん?」

????「その時は鈴々がやつつけるのだ!」

彼らは、山に何かが落ちた音を聞きその落ちた物を探しに行つてゐるのだが・・・

????「ふえゝん見つからないよ」

????「そりゃゝ簡単に見つからないだろ」

????「はにや?誰か倒れてるのだ」

????「下がってください桃香様」

????「そうなのだ、桃香お姉ちゃんの下がっておくのだ」

翔サイド

翔（痛えゝジジイ、もう少しマシな落ち方無いんか・・・）

心の中でボロクソ言いまくってるが・・・まあ良いでしょう

翔（しかし、ここはどこだ？）

彼の回りには草原が広がっている

翔（あそこに誰がいるな、ここがどこか聞いてみるか）

翔「すみません、ここはどこですか？」

???「その前にお前の名前を言え」

翔「俺は黒宮翔」

???「黒宮さんは天の国の人なんですか？」

翔「天の国？」

???「桃香、俺が話すから良いよ」

???「うん、わかったご主人様」

翔「お前、フランチエスカか？」

???「フランチエスカを知ってるのか？」

翔「俺も高校生だからな・・・いや、だったか・・・」

???「だっ・・・た？」

翔「ああ、俺は・・・ちょっとな死んでしまつてさ」

????「何をふざけた事を！」

????「ま、待てよ！愛紗とりあえず話を聞こつ」

????「くつ、分かりました」

一刀「俺は北郷一刀」

翔「なあ、一刀彼女達はなんだ？」

一刀「彼女達は・・・」

翔「お前のメイドか？」

一刀「違うよ、仲間だよ」

翔「仲間？」

一刀「とりあえず、紹介を・・・」

翔「なあ一刀、ここはどこだ？」

????「ここは桜閣ろうかくだ」

翔「桜閣？」

一刀「とりあえず紹介するから鈴々、桃香、愛紗」

一刀が言うと三人の女が来た

桃香「えっと、私の名前は劉備です」

翔「・・・はっ？」

鈴々「鈴々は張飛なのだ」

愛紗「我が名は関羽」

翔「一刀ちよつと来い」

一刀「なんだ翔？」

翔は、一刀を呼ぶと彼女達の方を指しながら聞いた

翔「あれ、偽名だよな？」

一刀「俺も最初はそう思ったよ」

翔「えっ、じゃあ・・・」

一刀「多分、気付いただろうけど今俺らは・・・」

翔「三国志の世界にいるだと？」

一刀「うん」

翔「ウソだろ・・・」

愛紗サイド

愛紗（まったく、ご主人様は・・・あんなわからない者をどうするのだ）

桃香（もしかしたら彼なら・・・）

桃香は何かを決心し翔に話かけた・・・

桃香「あの、翔さん！」

翔「ん、なんだ劉備？」

桃香「あの、私達の仲間になってください！」

翔「へっ？」

愛紗（桃香様、何を！？）

翔サイド

翔（仲間になってくれか・・・）

翔は、桃香の目には何かの決意があるとわかったからだ

翔（話を聞いてみるか）

翔「で、その訳は？」

桃香「私思っています、どうして力がない人が虐められるのかを・・・

」

翔「・・・」

桃香「だから私、思ってたんです、私が力のない人が虐められない世の中に変えて見せるって！」

翔（力のない人が虐められない世の中か・・・）

桃香「そして、いろんな人に力を借りながら実現させようと頑張っているんです」

翔「つまり、俺がその理想を叶えるために手伝ってくれと？」

桃香「ハイ！」

翔「・・・わかった」

桃香「じゃあ・・・」

翔「ただし、条件がある」

桃香「条件？」

翔「ああ」

翔が出した条件それは・・・

翔「そこにいるのは関羽と張飛なんだろう？なら、戦わせてくれよ」

そこにいた全員が空いた口が塞がらなかった・・・

一刀「翔、マジで言ってるのか？」

翔「マジだ」

愛紗サイド

愛紗（こいつはバカか、私たちが負けるはずが無い）

愛紗は翔なんか、雑魚だろうと思いつつながら勝負を受けた・・・

愛紗「わかった、その勝負受けよう！」

翔「へえー、やる気満々だな」

鈴々「鈴々を忘れるななのだ！」

翔「二人まとめてかかってこい！」

翔サイド

翔は一刀に天翔となんかの入ったアタツシユケースを渡した

一刀「なあ、翔これ何が・・・」

翔「さあ・・・あつ、それ十キロぐらい詰まってるらしいから」

一刀「ちょ十キロって、ふんぎゃー！」

桃香「ご主人様大丈夫！？」

翔「あゝあ、やっちゃったな」

いったい、彼のアタツシケースには何が入ってるんだろうか・・・

移動してる内に決戦場？に着いた

翔「さあゝて、始めますか」

翔は、天空と月影を装備し、構えた

愛紗「では、始めるぞ」

翔「後、お二人さん、俺投げ技しかないからな」

愛紗「ふざけた事を・・・参る！」

鈴々「参るのだ！」

翔「かかってこい！」

愛紗「はああああ！」

ブン！

翔「よつと」

愛紗「やああああ！」

シュン！

翔「ほらほら、その程度かな？」

愛紗「くっ！このー！」

翔は、避けてる一方なのだが戦う気はあるのか？

翔（今だ！）

翔は、関羽達の懐に入り込み・・・

翔「はああああ！」

投げ飛ばした・・・

翔（うつ・・・どうなった？）

彼の目の前は真っ暗

彼は手当たり次第、

周囲を触っていると・・・

プニッ

翔（柔らけ）

プニプニッ

愛紗「あん、そこは・・・」

翔（えっ？）

翔が目を開けるとそこは・・・

翔と愛紗

「「あつ・・・」」

翔は、愛紗の二つの膨らんだ山を揉んでた・・・

翔「あつこれは・・・」

愛紗「このバカがー！」

ドン！

翔「へボツ！？」

翔は愛紗から右ストレートを咬まされぶっ飛んだ・・・

その後・・・

翔「なあ、許してよ」

愛紗「ふんっ！」

翔（はぁ・・・そういえば真名ってなんだろう？）

翔は真名の事を聞こうとした

翔「なあ、一刀真名ってなんだ？」

真名・・・それは認められた者しか呼んではいけない名、たとえ知っていてもその人の許可なしに言う事は死に値する

桃香「という感じです」

翔「まあいいか、これからよろしく」

桃香「じゃあ、私たちの真名も授けます」

愛紗「桃香様！」

桃香「愛紗ちゃん、翔さんは仲間だからねわかってるでしょ」

愛紗「むう」

桃香「じゃあ、私から名前は劉備、真名桃香だよ」

鈴々「鈴々は張飛、真名は鈴々なのだ」

愛紗「むう」仕方ありません、名前は関羽、真名は愛紗」

一刀「俺は北郷一刀、フランチエスカの学生だ」

翔「俺は黒宮翔、よろしく」

こうして死神黒宮翔は女だらけの三国志、恋姫無双の世界に降臨した、これから彼らの戦いが始まる・・・

第一話 桃園の四人（後書き）

皆の頭脳を調べて見よう！

翔「作者、テスト近いのに大丈夫か？」

作者「ああ・・・たぶんな」

翔「・・・まあいいか鈴々、 $6+4$ は？」

鈴々「 64 なのだ！」

翔「桃香、分かるよな？」

桃香「私も 64 かな？」

翔「・・・愛紗」

愛紗「ハイ！ 46 ですよね？」

翔 バカしかいないじゃんこのクラス・・・

作者「愛紗ちゃんバカでも良いから後で俺の所に来い」

愛紗「分かりました」

作者（今から愛紗ちゃんをか・ん・き・んしてやるフッフッフ・・・）

後日・・・

作者「警察さん！僕は監禁してません」

警察「とりあえず、カツ丼食うか？」

作者は監禁未遂罪で捕まった・・・

第二話 アルティメット来る！（前書き）

久しぶりの更新です

第二話 アルティメット来る！

愛紗達の仲間になった死神、黒宮翔
しかし・・・

翔「何で俺らは歩いてんだ？」

愛紗「翔殿、それ聞くの三十回目ですよ」

翔「だってさあ、馬か何かは無いの？」

一刀「仕方ないじゃん無いんだから」

なぜ彼らがこうなのかって？

それは数日前の事である・・・

数日前・・・

翔「仲間になったは良いがこれからどうするんだ？」

愛紗「そうですね、東に向かって見ますか」

翔「東って何があるんだ？」

桃香「なんか、もんすたーって言うのがいるって」

翔「モ、モンスター？」

鈴々「そうなのだ、強いらしいのだ」

翔「それで、東に？」

愛紗「という事です」

そして、今に至る・・・

鈴々「鈴々、歩くの疲れたのだ」

一刀「俺もだ、町は無いの？」

翔「あつ、あるみたいだぜ」

桃香「お腹すいたー」

鈴々「鈴々もなのだ」

翔「町でモンスターの情報を集めて見ますか」

とあるラーメン屋・・・

翔「東園^{とうぞ}？」

愛紗「東園って所にもんすたーって言うのがいるらしいです」

翔「東園か・・・」

東園・・・東の方では有名らしいが・・・

翔（実際の歴史上では無かったな）

しかし、そんなことは彼にとってはどうでも良かった

翔（しかしジジイが言ってた相棒ってどんなモンスターだ？）

ジジイが相棒がいるとしか言われて無いためどんなモンスターか知らない、えっ？どんなモンスターかって？
それは作者にしかわからない

翔「早くしろよ」

ズズズ

翔「ラーメン美味えなあ」

ズズズ

ラーメン食ってから東園に出発した翔達、そして・・・

東園

翔「着いた」

愛紗「着きましたね」

鈴々「着いたのだー！」

桃香「やっと着いた」

一刀「やっと着い・・・」

翔「じゃあ、行くか」

一刀「ちょ、翔俺にも言わせてよ」

ガヤガヤ・・・

東園に来たが不思議なくらい騒いでた・・・

翔「なあ、何があったんだ？」

兵士「あなたは天の御遣い様ですか？」

翔「ああ、そうだが・・・」

兵士「良かった、こちらに来て下さい」

翔「・・・？」

するとそこで翔が見たのは・・・

愛紗サイド

愛紗「まったく翔殿はどこにいるんですか・・・」

愛紗が愚痴るのも仕方ない、桃香と一刀はかるゝくイチャイチャしながらどこかに行き、鈴々に限っては・・・

鈴々「ご飯が鈴々を呼んでるのだ！」

と言うとどこかに行ってしまったから愛紗が一人で探しているので

ある

愛紗（はぁ・・・皆自由なんだから）

と思いながらため息をし、探していると・・・

桃香「愛紗ちゃん」

一刀「愛紗」

鈴々「愛紗、早く来てなのだ」

愛紗（何があつたのだ？）

するとそこには・・・

翔サイド

翔「お前がジジイの言ってた相棒か？」

????

「そうだけど、アンタが死神だね？」

翔「ああ、名前は？」

アル「俺はアルティメット、死神の新しい相棒だ」

アルティメット

見た目は二足で立っているドラゴン、翼があり右腕にガトリング、

左腕にソードを装備している
擬人化した時はガンダムSEED DESTINYのシン

翔「アルティメットか・・・」

アル「どうしたんだ？」

翔「いや、名前が長いからなく、アルだな」

アル「アルかぁ・・・略すなよ」

翔「まあ良いじゃん」

どうしても良い事言つてたら・・・

愛紗「翔殿、その方は？」

翔「新しい相棒だ」

アル「なあ、そろそろ正体ばらして良いよな？」

翔「まあ・・・大丈夫かな」

と言うとアルトはモンスター化した

ガヤガヤ・・・

桃香「すごい・・・」

一刀「スゲー・・・」

鈴々「すごいのだ！」

愛紗「翔殿大丈夫なのですか？」

翔「まあ良いしょ」

その時！

兵士「大変だ！黄巾党がこの町に襲撃しに来る」

翔「その話、本当か！？」

兵士「はっ！数は一万です！」

一刀「一万って・・・」

桃香「どうしよう」

愛紗「余りに戦力が違いすぎる」

翔「一万って余裕だろ、アル」

アル「ああ、そうだな翔」

翔「俺達に任せろ」

という訳で・・・

翔「アル、簡単に殺られるなよ」

アル「それはアンタもだろ」

ハハハハ・・・

翔「さて、行きますか」

翔は天翔を構え、アルはモンスター化し、黄巾党に言った

翔「聞け賊共！俺はお前らを地獄に連れて行く死神だ！覚悟がある奴だけかかって来い！」

と言うとアルと翔は戦場に入り戦い始めた・・・

数分後・・・

翔「簡単だったな」

アル「雑魚過ぎ」

二人は余裕の表情で帰ってきた

愛紗「お疲れ様でした、凄かったですお二人の武術」

翔「そうか？」

そんな話をしたら町長がやって来た

町長「黒宮様、もんすたーが北の方にいるとの噂を聞きました」

翔「本当か町長？」

町長「はい、そうらしいです」

翔「ありがとうございます」

翔「皆、北の方にモンスターがいるらしいから行って見ようぜ」

愛紗「それがよろしいでしょう」

桃香「行ってみよう」

翔「よし、出発だ！」

全員「オー！」

俺らは北の方に向かい、モンスターを探しに行く事になった

第二話 アルティメット来る！（後書き）

翔「アルってさ何で両腕に武器が着いてるの？」

アル「さあ、作者にしかわからないじゃん」

翔「作者、テストは大丈夫だったのか？」

作者「多分、ヤバいかも・・・」

愛紗「作者殿、勉強してください」

作者「じゃあ、愛紗が教えてよ」

愛紗「分かりました」

後日・・・

作者「翔アル、愛紗に勉強を聞いたのが間違だった」

アル「でも、何か良い事あった感じだよ」

作者「いやあ、ちょっと愛紗の二つの山を触り捲ってさプニプニしてたんだよ！」

翔「あー、警察さん？ここに痴漢と監禁とわいせつをした容疑者がいるので至急逮捕をよろしく願います」

作者「・・・」

アル「お決まりみたいなもんだろ」

第三話 人妻と迷子探し（前書き）

翔「他の二作品は更新してないようだが大丈夫か？」

作者「まあ、更新停止かな・・・」

翔「まじめにしろや」

作者「では、本編をどうぞ」

第三話 人妻と迷子探し

前回、町長から北の方にモンスターの噂を聞き向かっている翔達
彼らが行く先にモンスターはいるのか？

翔（まだ、桃香は国を入手してないのか？）

彼がそう思うのは黄巾党が襲撃して来たからだ

翔（蜀がないって事は、大きな戦がまだないって事か・・・）

アル（まあ、歴史の流れ通りに行くかわからないからな）

翔（何でお前がいるんだよ）

アル（能力で心をシンクロさせて話せるからな）

翔（意外だな、でどう思う？）

アル（まず、武将達が女である事が違う）

翔（次に、聞いた事がに無い場所がある）

アル（多分、パラレルワールド説が有力かと思うな）

翔（パラレルワールドって存在しないって言われてるのに？）

アル（じゃないならこれはどう説明できる？）

翔（確かに・・・）

話をしてる内に・・・

桃香「この村で休憩しましょうよ」

一刀「うん、俺もそう思う」

鈴々「ご飯なのだー」

翔「情報を集めるためにな」

アル「俺は人間化して置くぜ」

翔「ああ、頼む」

村

ガヤガヤ・・・

翔「ここも賑わってるよな」

愛紗「そうですね」

アル「まあ、あそこでイチャついてるカップルがいるけどな」

桃香「ねえねえ、ご主人様これ可愛いよね？」

一刀「俺もそう思うよ桃香」

桃香「ホント、ご主人様？」

一刀「ああ、スゲー可愛いよ」

これ以上この二人の様子を書くのはダルいので翔ばします

作者「無限に続くから書くのはダルい」

翔「その様子を見ている俺達はどうしたら良い？」

作者「愛紗ちゃんはやらないからな、エロ神」

翔「だ〜れ〜がエロ神だー！」

ヒュン！

作者「では続きを」

愛紗サイド

愛紗「鈴々、食いきれるのか？」

鈴々「大丈夫なのだ！」

愛紗「はぁ・・・」

愛紗（翔殿を置いてきぼりし、鈴々に連れてかれてきたのだが大丈夫でしょうか？）

愛紗にそんな心配をされている翔は・・・

翔サイド

翔「俺ら、迷子だな」

アル「迷子だなこりゃ・・・」

翔「・・・」

アル「・・・」

二人の間に沈黙が流れ・・・

二人「はあ・・・」

二人「どうしようか、アル」翔「」

そんな二人の目の前に小さな泣いてる女の子がいた

少女「うえーん、お母さーん!」

アル「さっさしろロリコンやる・・・」

翔「誰がロリコンだ!」

んな事言いながら翔は泣いてる少女に話しかけた

翔「どうしたんだお嬢ちゃん」

少女「あのね、お母さんとね、はぐれて迷子になったの」

翔「お兄ちゃんと一緒に母さんを探しに行こう」

少女「私ね、璃々って言うの」

翔「じゃあ璃々ちゃん、あのお兄ちゃんと一緒に探そう」

翔が指差した先には・・・

アル「で、俺も手伝えと？」

翔「まあ、良いじゃん」

アル「良くねえ、なあ璃々お母さんってどんな人？」

璃々「んーとね、優しくてきれいでいろんな男の人に話しかけられるよ」

アル「ナンパされるほどの美人ってどんな人だよ」

璃々「お兄ちゃん、なんぱってなーに？」

翔「璃々ちゃん気にしないで良いよ、あのおチャラ男（龍）はバカだらな」

アル「誰がチャラ男や!？」

そんなバカな事話してる内に

????

「璃々どこにいるの」

璃々「あつ、お母さんの声だ!」

声のする方角に行くと・・・

愛紗サイド

あの後、愛紗と鈴々は一刀と桃香に合流し翔とアルを探しに行つて
ると・・・

????

「あの、この辺で女の子を見てませんか？」

愛紗「女の子? いや、見てないが」

桃香「どうかしたんですか？」

????

「娘とはぐれて迷子になったみたいで」

鈴々「それは大変なのだ!」

桃香「私達も一緒に探します」

????

「ありがとうございます」

そうして探してる内に

璃々「お母さん！」

???

「璃々！良かった、本当に良かった」

翔「良かったな璃々ちゃん見つかったさ」

璃々「ありがとう翔お兄ちゃん！」

そう言つと璃々は

チュッ

翔のほっぺにチューした

愛紗「翔く殿くなにしたんくですか？」

翔「愛紗、苦しい、首首！」

桃香「翔さん、何したんですか？」

翔「するわけ無いだろ！」

アル「あゝあ、やっちゃったなあ、一刀？・・・」

少女「御遣い様」

一刀「ハイハイ、わかったからな」

アル「桃香、一刀が浮気してるぞ」

桃香「うそ？本当に？」

アル「あそこに」

その後、一刀は殴られ、翔は死ぬ直前になってた・・・

翔「で、あなたの名前は？」

紫苑

「黄忠と言います」

翔（なあアル、黄忠って弓の名手だよな？）

アル（仲間になってくれたらけっこう良いと思っぜ）

翔（SHOW THE ネゴシエーションを開始だ）

アル（ネゴシエーションねえ？）

翔「黄忠殿、俺らと共に旅をしないか？」

紫苑「はい、こちらこそよろしくお願いします」

愛紗「翔殿！何を考えているんですか？」

桃香「愛紗ちゃん、きつと翔さんは考えがあるからだと思うよ」

鈴々「鈴々は、翔お兄ちゃんは天の国の御遣いで強いからそう思うのだ！」

愛紗「むうゝ鈴々まで」

アル「まあ、良いじゃないか姉さん」

愛紗「アル殿まで・・・あゝ分かりました!」

翔「なあ黄忠、真名って」

紫苑「紫苑で良いですよ」

翔「じゃあ、紫苑よろしく」

こうして、紫苑が仲間になってくれた翔
これから大変そうだ・・・

第三話 人妻と迷子探し（後書き）

翔「なあ、紫苑ってさいろんな男からナンパされるって璃々ちゃんから聞いたんだが何の仕事をしてるんだ？」

紫苑「昼は普通の母親で夜は・・・」

アル「怪盗 ウーマンとか言いそう・・・」

璃々「夜は、お母さん璃々の知らない男の人と抱き合ってたよ」

一刀「えっ？それってセ・・・」

翔「言うな一刀！」

璃々「何か抱き合ってた時に声も聞こえたよ」

アル「やっぱ、それってセ・・・」

翔「お前も言うな！」

愛紗「翔殿、その・・・」

翔「愛紗も言うな！」

璃々「で、何か朝までやってたの」

桃香「本当にすごいよね、セ・・・」

翔「桃香も言うな！」

翔「璃々ちゃんお母さんの仕事の話はもう良いからな、この小説誰が読んでも分からないからな、あそこの変態作者みたいな奴がいるからな」

作者「誰が変態だ、ロリコン！」

翔「ロリコンだと!？」

作者「俺は愛紗一筋だからな、変態とは違っのだよ、変態とは」

翔「そのセリフはあれだな」

作者「さあ、愛紗ちゃん今から家でイロイロしようぜ！」

愛紗「翔殿、助けて〜！」

しかし、作者が愛紗の二つの山に触れた瞬間！

愛紗「この、変態作者がー！！」

ピカーン！

愛紗の右アッパーが炸裂し、作者は天国？（地獄）に墜ちた・・・

紫苑「ちなみに私の仕事は です」

翔「自信満々に言うなよ！」

第四話 死神の戦い方（前書き）

今回、短いです

後、グロい所もあります

第四話 死神の戦い方

翔「なあ、いつになったら着くんだ？」

愛紗「話だと、この辺らしいですが」

アル「ここって北方面だろ」

翔「って事は、魏か・・・」

桃香「魏って？」

翔「将来、敵になるかもな」

愛紗「敵・・・ですか」

翔「命は自分でどうにかしろよ」

一刀「どうにかって・・・」

翔「璃々と紫苑と一刀とアルは残っててくれ」

アル「大丈夫なようならシンクロで呼んでくれ」

翔「わかった、愛紗、桃香、鈴々、行くぞ」

翔達は魏の国の関所を越えて魏の国のある町、砂背さはいの城に入った

????

「あなた達？私の所を通りたいのは」

翔「いや、話をしに来た」

????

「他の人を呼んで来なさい」

翔（アル、来てくれ）

アル（了解）

数分後・・・

翔「俺たちの話を聞いてくれてありがとう、曹操」

華林「！！よく私が曹操ってわかったね」

アル「へえー、こんなチビドリル頭が曹操か」

春蘭「キサマ、華林様になんて事を！」

華林「春蘭！いい加減にしなさい」

春蘭「クッ！」

翔「話に来たのは・・・」

兵士「申し上げます！」

華林「今、会談中なの分らないの！」

兵士「今、噂のモンスターの成群が襲撃に来て！」

華林「すぐに兵士を！私も後から行く」

翔「俺たちも行くぞ」

愛紗「御意！」

鈴々「わかったのだ！」

翔「一刀と桃香と璃々ちゃんはここに残ってくれ」

一刀「わかった！」

翔「アル、ひと狩り行きますか！」

アル「よっしゃ、行くぜ！」

そして、戦場に行った・・・

戦場

翔「おお・・・いるいる」

アル「ドスランポスとドスジャギイにイヤンクツクか」

愛紗「あれが・・・」

華林「今よ！弓隊放て！」

ヒュン！

しかし、ドスランポス達の前では無効だった・・・

ギャオギャオ！

ズサッ！

兵士「うわー！来るなー！」

兵士達がどんどん死んでいく中、華林は・・・

華林「そんな我が軍の部隊が・・・」

春蘭「華林様！」

華林「はっ！？」

ギャオギャオ！

その時、華林の後ろにランポスが飛びかかった・・・

華林（クッ！）

ボキッ！

ギャア・・・

バタッ・・・

華林「いつたい誰が・・・」

翔「ばさつてするな、死にたいのか！」

愛紗「翔殿・・・」

そう、彼はランポス達の首を折ったり、イヤンクツクの耳を引きちぎったりと血を出さず殺してると思ったら・・・

翔「はああああ！」

ビュン！

ズサツ！

ギヤア！

頭を天翔で切り落としたりと残酷な光景になっていた・・・

愛紗「これが翔殿のやり方・・・」

華林「死神・・・」

鈴々「何も言えないのだ・・・」

アル「翔・・・死神の名にふさわしい人物だな」

翔（血が弾け、首が飛ぶぜ！）

そして翔は叫んだ・・・

翔「これが俺のやり方！死神のやり方だ！血が足りねえ、もつと殺してやるよ！」

彼は・・・もはや死神の状態に入ってしまった・・・

愛紗「鈴々、大丈夫か！？」

鈴々「愛紗、もうここにいたく無いのだ」

モンスターの大量を全部片付けた後

華林「あなたの目的は何？」

翔「俺の目的はモンスター狩りをしながら、桃香達の理想を手伝う事だ！」

第四話 死神の戦い方（後書き）

翔「はあ・・・」

作者「かなり、殺したな死神」

翔「ああ、死神の戦い方ってこんなグロッキーで良いのか？」

作者「まあ大丈夫だろ」

アル「まあ、死神の名にふさわしいからな」

翔「死神か・・・」

作者「という訳で死神に愛紗ちゃんの魂を持って行かれないから拉致・・・じゃなくて誘拐・・・じゃなくてお持ち帰りじゃなくて連れて帰るわ」

翔「いろいろ危ない事言い過ぎだろ、犯罪者予備軍が！」

作者「なんや、璃々に普通に話しかけるロリコンが！」

アル「まあまあ、待てや二人とも」

翔と作者「黙れ、エロ龍が！」

愛紗「はあ・・・この作品大丈夫でしょうか？」

第五話 雷獣、ジンオウガ！

華林「それがあなたの目的？」

翔「ああ」

華林「・・・で私はどう手伝ったら良いの？」

春蘭「華林様！」

華林「春蘭、落ち着きなさい」

秋蘭「落ち着け姉者」

春蘭「しかし！」

翔「話を続けて良いか？」

華林「ええ、続けて」

翔が聞いた事それは・・・

翔「噂で良い何か無いか？」

華林「私は聞かないねえ」

風「確かにモンスター情報が無いですね」

秋蘭「確かにな」

兵士「あの・・・」

翔「何だ？」

兵士「雷山らいざんの所で満月の夜に何かの鳴き声が聞こえると・・・」

翔「満月・・・鳴き声・・・」

桂花「そんなの普通じゃない」

翔「いや、心当たりがある」愛紗「本当ですか翔殿？」

アル「雷山・・・満月・・・鳴き声・・・アイツか」

翔「多分あれだな、おい猫女」

桂花「誰が猫女だ！」

華林「桂花、黙りなさい」

翔「いつ、満月だ？」

桂花「クッ！答えたくないが、今日だ」

翔「曹操、兵士を雷山に行かせるな」

華林「どうして？」

翔「相手は素早く、雷の攻撃だ」

愛紗「あの・・・翔殿我々は？」

翔「愛紗は大丈夫だ来てくれ」

決戦まで・・・

翔「はっ！」

ガキーン！

凧「クツ！はっ！」

ガーン！

翔「大分、ペースがわかって来ただろ」

凧「はあはあ・・・スキが少ないがはあはあ・・・体が追い付かない」

翔「まあ、しゃーないやろ」

アル「さすがだな翔」

愛紗「翔殿ってあんな感じだが大丈夫なのかアル殿」

アル「知らねえ、でもやって行けるから良いんじゃない？」

アルは愛紗と一緒に木の下で餡まんを食いながら、翔と凧の演習の様子を見てた

愛紗「翔殿危ない！」

翔「よつと！」

凧「ここまでだな」

翔「ああ、良い動きじゃん楽進」

凧「そうか？体が軽くなった気がするが」

その時

典韋「凧——！昼飯出来たよ——！黒宮さん達も！」

翔「ああ、行くか楽進！」

凧「うむ」

愛紗「あれ？翔殿私達はってアル殿？」

気が付いたら周りに誰もいなく愛紗一人だった・・・

夜

翔「よし、作戦の説明をする」

今回の作戦

翔「まず、俺とアルでモンスターの動きを止める、その間に紫苑と

夏候淵が弓隊で弓を放つ、残りの者は距離を開けてまあ観戦しててくれ以上、質問がある奴」

秋蘭「弓はどのくらい放てば良い？」

翔「ざつと一万だな」

桂花「一万って少ないが大丈夫なの？」

アル「その後は俺と翔で奴に接近して戦う」

愛紗「接近って危険です！」

翔「愛紗、俺とアルが弱そうに見えるか？」

愛紗「うつ・・・それは・・・」

紫苑「愛紗ちゃん、翔さんは帰って来るから大丈夫」

愛紗「むう・・・」

翔「説教は帰ってからな」

翔が愛紗の頭を撫でてから天翔と天空と月影を装備し

翔「やあああてやるぜ！」

翔がそう叫ぶと馬に飛び乗り、雷山に向かった・・・

雷山

翔サイド

翔（やっぱ雷って事はアイツだが武器は良くて防具がな・・・）

アル（神様から聞いたんだが、防具などは大丈夫って）

翔（ジジイがねえ・・・嘘っぱいな）

アル（まあ、大丈夫さあ）

翔
だけどなあ・・・

その時！

ウオオオーン！

翔「今のは！？」

アルト「こつちだ！」

翔達は声がした方向に向かったが

翔「いねえじゃん！」

アル「おかしいなあこつちからしたんだが・・・」

愛紗「翔殿ー！」

紫苑「翔さん！」

翔「何があつた紫苑！」

愛紗「翔殿私は？」

翔「紫苑、何かあつた？」

紫苑「実はですね・・・」

愛紗「あの私は・・・」

アル「放置されたな姉さん」

愛紗「ううゝ翔殿」

アル「姉さんドンマイ」

そんな、愛紗を放置してる張本人は・・・

翔「愛紗を放置してるんじゃない、あえて無視してるんだ」

アル「やっぱ翔らしいな」

紫苑「あの話をよろしいかしら？」

翔「話をしてくれ」

その話は緊急事態！エマージェンシーだった・・・

翔「璃々がいなくなつた！？」

紫苑「ええ、目を離してたらいなくなつてて・・・」

翔「アイツに見つかったらヤバいかもな・・・」

紫苑「どうしましょう!」

翔「急いで探そう!」

璃々がいなくなり更に緊迫した状態になつた翔達・・・

一方

璃々「ここどこ?」

璃々は紫苑と離れてしまい一人ぼっちにまたなつてしまった

璃々「お母さ〜ん!翔お兄ちゃ〜ん!」

???「どうしたの?」

璃々「あのねえ〜お母さん達と迷子になつたの」

???「俺も探すよ」

璃々「ありがとう、大きな犬さん!」

ジン「俺は大きな犬さんじゃなくてジンオウガな」

璃々「私は璃々だよジンお兄ちゃん!」

ジン「んじゃ、探しますか！」

璃々「おお！」

璃々はジンオウガの前足から背中に乗り璃々とジンオウガは翔達を探す事になった・・・

その頃翔達は・・・

翔「璃々どこだー！」

紫苑「璃々〜！」

愛紗「まさかもう・・・」

アル「そんなこと考えるな、どうせなら翔と紫苑がやってからもう一人作れば良いじゃん」

翔「アル！てめえ、裏切ったな！」

紫苑「そうねえ、子供はもう一人欲しいからねえ」

愛紗「紫苑まで!？」

翔「俺が紫苑と!？」

紫苑「翔さん私が妻ではダメですか？」

翔「うつ・・・」

翔（紫苑はスタイル抜群だし、美人だしマジで結婚しようかな？）

華林「ねえ、何か来てない？」

翔が考えている間に華林が言った

アル「この気配・・・来るぞ！」

ウオオオーン！

璃々「お母さん！」

全員「えっ？」

その時声がしたのはジンオウガだけではなく璃々もだった・・・

紫苑「璃々、何してるの！？」

璃々「何ってジンお兄ちゃんと一緒にお母さん達を探してたの」

ジン「と言っ訳です」

翔「ジンオウガだよな？」

ジン「あんたは？」

翔「俺は「翔お兄ちゃんだよジンお兄ちゃん！」・・・だ」

ジン「セリフとられたな」

翔「うるせえ、どうせ戦っただけだ」

アル「やれやれ、翔がセリフとられたて泣いてやがるし」

翔「アル行くぞ！」

アル「ハイハイ行きますか」

しかし・・・

璃々「ダメ！翔お兄ちゃんでもジンお兄ちゃんをいじめるのはダメ！」

翔「璃々ちゃん・・・」

愛紗「璃々殿・・・」

紫苑「璃々かばってもダメです！」

璃々「お母さんもジンお兄ちゃんをいじめるの？」

紫苑「危ないから離れなさい！」

璃々「嫌だ！お母さんでも退かない！」

紫苑「璃々わがまま」もう言わなくていいよ紫苑」しかし！」

愛紗「そうです翔殿！危険なのでは？」

翔「こいつは危険じゃない、大丈夫俺を信じろ！」

愛紗「・・・分かりました」

翔「・・・ジンオウガどうする？」

ジン「俺は・・・」「ジンお兄ちゃんも一緒に行こう！」「・・・一緒に行く」

翔「改めてよろしくなジンオウガ」

こうして新しい仲間ジンオウガが仲間になった

後日

前は餡まんだったが今回は肉まんを食いながら木の上にいる翔、そこに・・・

愛紗「翔殿、こんな所にいたのですか」

翔「ああ、愛紗か肉まん食う？」

愛紗「いえ、いりませんそれよりも曹操殿が呼びです」

翔「曹操が？」

皆、曹操の所に集められたそこで言った事

華林「黒宮、私の仲間に「却下」どうして？」

翔「俺は百合百合しい所にいたくは無いいね！」

愛紗「翔殿・・・」

翔「皆、行くぞ」

タッタッタツ・・・

華林「黒宮翔、ますます気に言ったわ」

そんな華林の不敵な笑みを翔達は知らないだろう・・・

門を抜けた所

翔「さて、これからどうする？」

アル「宛も無いし」

愛紗「モンスターの噂も有りませんからね」

桃香「あ、思い出した！」

一刀「桃香どうしたんだ？」

桃香「もう少し先の所に白蓮ちゃんの所だった！」

翔「誰？」

一刀「桃香の幼なじみで公孫釐って人らしいんだけど・・・」

鈴々「どこかで聞いた気がするのだ」

ジンオウガ「どうするアニキ？」

翔「んじゃ、影薄様の所に行ってみますか」

ジンオウガ「皆、俺の背中に乗って！」

璃々「出発なのら〜！」

ジンオウガ「なのら〜！」

翔「璃々楽しそうだな」

紫苑「ええ、嬉しいみたいです」

・
・
翔達はジンオウガの背中に乗り、公孫賛（影薄様）の所に向かった・

第五話 雷獣、ジンオウガ！（後書き）

翔「璃々、今回はお手柄だな」

璃々「ありがとう翔お兄ちゃん！」

翔「ほいアメちゃん」

璃々「ワイありがとう！」

愛紗「翔殿さつき璃々殿にあげたのは？」

翔「天の世界にあるお菓子だ」

一刀「でも、どうやって持って来たんだ？」

翔「最初一刀に持たせたアタツシケースがあっただろあの中に入ってた」

一刀「他に何が入ってるんだ？」

翔「さあ？」

璃々「翔お兄ちゃん！この本何？」

そこにあっただのはグラビア雑誌だった・・・

翔「何でそんなものがー！？」

紫苑「しかも巨乳系とロリ系とビキニ系ですね」

桃香「翔さんそんな趣味だったんですね・・・」

愛紗「翔殿・・・覚悟出来てますね？」

翔「あんな愛紗、これは違うからな」

愛紗「何が違うんですかー！」

愛紗が青竜刀を振り回しながら追いかけられる翔

翔「桃香あれは一刀もあつたぞ璃々よろしく！」

璃々「分かったよ翔お兄ちゃん！」

一刀「やべ、ジン助けって裏切る気かよ！」

ジン「俺は璃々の味方だ！」

翔と一刀「ロリコンかよ!?」

ジン「俺はロリコンかもな！」

この後翔は愛紗から・・・

一刀は桃香から・・・

ジンは紫苑から・・・

ボコボコにされたのであつた・・・

鈴々「鈴々が出てないのだ――！」

第六話 男の娘は、孔明の毬！？（前書き）

翔「題名が男の娘って・・・」

作者「二度やりたくないだろ？」

翔「ああ」

作者「後、ロリコンと小学生か・・・」

翔「作者もロリコンだろ」

作者「!？」

第六話 男の娘は、孔明の罠！？

ジン「桃香さん、どっちすか？」

桃香「えっーとあっちかな？」

ジン「んじゃ行きますか」

桃香「いや、こっちかな？」

ジン「どっちだよ桃香さん・・・」

翔（俺達は今桃香の友達公孫釐の所に向かつてるのだが・・・）

アル（迷ったんだよな翔）

翔（ああどうしたら良いんだよ）

ジン（桃香さんが方向音痴過ぎて辛いよ）

翔
ああってジンもか・・・

ジン（もう三日間この辺歩いてるよな・・・）

璃々「お母さん璃々お腹すいた」

紫苑「璃々我慢しなさい」

璃々「でも」

翔「桃香いつになったら着くんだよ」

桃香「えっーとアハハ・・・」

皆が途方にくれてもう無理だろ思ったその時！

キヤーー！

アル「もうこれ、お約束だよな」

翔「ああ・・・」

一刀「助けに行くんでしょ？」

翔「どうしよつか？ダルいし助けに行かなくて良い？」

ドカツ！ボキッ！

翔「愛紗殴らなくて良いじゃん・・・」

愛紗「なら助けに行きますよね？」

・ 今、愛紗は笑顔で青竜刀を構えてるがその後ろには鬼神が見える・・・

翔「助けに行きます」

森林

翔「声がしたのはこっちだな・・・ってもう賊がいるし」

???「はわわ、どうしよう雛里ちゃん！」

???「あわわ、どうしよう朱里ちゃん！」

チビ「良い子にしてろよ」

デブ「そうだな、良い子にするんだな」

ノッポ「大丈夫すぐに「命を消してやるからな」えっ？」

翔は一刀の両足を持ちそして・・・

一刀「えっ？翔何を・・・」

翔「必殺！ロリコンハンマー！」

翔は一刀を投げ賊共に当てた！

三人「」「ギャー！」」「」

ピカーン！

翔「ついでにロリコン一刀死ねえ！」

一刀「投げるなよ投げるなよー！？」

翔「ぶっ飛べえー！」

一刀は翔に投げられ木にクリティカルヒットしたそして・・・

翔「さらにアル、ジン！」

アル「ロリコン一刀ごめんな（笑）フレイムバーナー！」

ジン「璃々に手出したら殺す！サンダーブレーク！」

アルは口から炎を、ジンは頭の角から雷を一刀に当てた・・・

その後・・・

翔「で、あわわとはわわの嬢ちゃんどうしているの？」

朱里「はわわの嬢ちゃんじゃないです」

翔「どうでも良いからさっさ言え」

雛里「あわわ殺さないでください！」

愛紗「翔殿殺すのは止めてください！」

翔は天翔を構えて朱里と雛里を斬ろうとしていたが仕方なくやめた

一刀「とりあえず幼女の話は聞こうぜ」「ロリコン死ね」「とりあえず・・・な？」

翔「ちっ！」

愛紗サイド

愛紗（翔殿舌打ち聞こえてますから！）

翔「一刀、あわわとはわわから話聞いてて「えっちよっ翔！」よろしく」

と言うと翔殿はどこかに行った・・・

桃香「翔さんどこに行ったんだろっね？」

紫苑「さあ、どこでしょうね？」

翔サイド

翔「ジジイ、いるんだろ！」

ジジイ「久しぶりじゃのう翔よ」

久しぶりの登場の神様^{ジジイ}しかし声だけである・・・

翔「ジジイ、呼んだ理由は何だよ？」

ジジイ「もうすぐお前達の前に謎の敵が襲撃してくる」

翔「謎の敵？・・・」

ジジイ「後、お主の知り合いがやって来る」

翔「俺の知り合いが？」

ジジイ「そして・・・」

アル「この歴史は普通の歴史じゃないことだろ？」

翔「アル！？」

アル「よお翔、ジジイ」

神様「やっぱお前もジジイかい」

アル「良いじゃねえか」

翔「なあ、歴史が違うつて事は本来起きないのが起きるつて事？」
神様「そうじゃそれだから何が起きるか分からないからのう」

アル「話はそこまで良いか？」

翔「そろそろ愛紗が心配しそつだからな」

神様「まあワシはシンクロで話せるからな」

翔「何かあつたらまた連絡する」

アル「じゃあなジイさん、次は土産持つて来いよ」「老人に無理をさせる気かい？」
「アンタは老人じゃないだろ」

ジジイ「バレたか、つまらんのう・・・」

翔とアルはジジイと話を終えて戻った・・・

戻ってから・・・

翔「ただいま戻った」

アル「戻ったぞ」

桃香「翔さん何してたんですか？」

翔「まあ、食い物探してた」

朱里「あの」

一刀「どうしたの？」

朱里「この先に私達の仲間がいるはずなんです」

翔「オイはわわ、それはマジか？」

朱里「私は、はわわじゃなくて諸葛亮です」

全員「はあ（えっ）（マジかよ）（びっくりなのだ）！？」

雛里「私は鳳統です」

全員「「「「「「「」」」」」」」

ジン「アンビリーバボ」

そう、皆がビックリするのも無理はない今、彼らの前にいるのはあの天才諸葛亮と鳳統が小学生に見えるからだ・・・

翔「・・・じゃあその仲間の所に連れて行ってくれロリ小学生」

朱里「私はロリでもなく小学生じゃないですう」

翔「さっさしろよ」

翔は軽く朱里と雛里に嫌みを言いながら、一刀を殴っていた・・・

一刀「ちょ翔！痛いから、痛いし！」「黙れロリコン！」「うう・・・
桃香」

桃香「えっーとアハハ・・・」

翔「あんまりあれだと俺の寿命が縮まる修行に付き合わせるぞ」

一刀「それはカンベンしてよ」（泣）

こんな感じで一刀を虐めながら朱里と雛里の仲間がいる所に行った・・・

帝希^{ていぎ}

朱里「翠さん、星さん今戻りました」

と諸葛亮が青髪の少女と茶色の髪の少女に言った

星「むっ、その連れの方は？」

朱里「今、噂の天の御遣いなのです」

翠「なあ、星一人だけ気迫が違う奴がいるよな？」

星「うむ、しかしあれは何処かの軍にいたとか？」

翠「さあ、俺にはさっぱりだ」

翠と星が明らかに翔に対して言ったのだが一刀は無し・・・

一刀「なあ、俺嫌われてるのか？」

アル「知りませんよ」

一刀「うう・・・桃香」（泣）「

桃香「ご主人様泣かないでください（泣）」

翔「バカップルが・・・」

愛紗「あれは確かに呆れます・・・」

アル「まあ平和にな」

白蓮「星、何があつたんだ？」

蒲公英「お姉さまどうしたんです？」

やって来たのは蒲公英と白蓮だった

翔「アンタは？」

白蓮「コイツらの仲間だ」

蒲公英「馬超の従妹だ〜！」

翔「・・・また変わった奴らだな・・・」

白蓮「ん？桃香じゃないかどうしたんだ？」

桃香「あのねこういう事が・・・」

桃香は白蓮達に今までの事と翔の事を話した・・・

白蓮「なるほど、そんなことがあったんだな」

桃香「うん、で愛紗ちゃんの隣にいるのが翔さんだよ」

白蓮「あの男が黒宮翔」

星「あの男が死神って呼ばれてる男・・・っておらんではないか」

桃香「えっ？さっきまでいたのに」

一刀「翔なら愛紗と出かけたよ」

桃香「えっー」

一方その頃翔と愛紗は・・・

翔サイド

翔「ありがとうおっちゃん、勘定よろしく」

おっちゃん「毎度ありー!」

翔は町で飯を食いに行こうとして愛紗に捕まりついでに愛紗も連れて行く事になり今に至る・・・

翔「いやーさっきの店の料理旨かったよな」

愛紗「そうですね、ところで翔殿何で隣に璃々殿が?」

翔「あつ? 璃々は紫苑に頼まれたからなあ璃々?」

璃々「うん、お母さんから一緒に出かけてって言われたの」

翔「まあそういう訳で仕事よろしく」

翔は愛紗に仕事を任せてどっかに行こうとし・・・ガシッ・・・上手く行かなかった・・・

愛紗「どこに行くんですか翔殿?」

翔「えっ? あー璃々と遊びに・・・」

愛紗「翔殿、仕事をしましょうか」

璃々「翔お兄ちゃん、遊びに行こう!」

翔「という訳でそんじゃ!」

翔は璃々と一緒にどこか遊びに行ってしまった・・・

愛紗「はぁ・・・どうしたら良いものか」

アル「まあそこは俺に回ってくるんですがね」

愛紗「アル殿、何でいるんですか？」

アル「仕事の件は、朱里と雛里に脅しじゃなくて頼むように翔から指示されたから」

愛紗「脅しって・・・」

アル「まあそこは大人の事情と作者の都合上で」

愛紗「・・・」

翔サイド

翔（ふう・・・愛紗から逃げたけどどうしようか）

璃々「翔お兄ちゃん、あの人形さんが欲しい！」

翔「あーでもな璃々」

ジン「買ってやれやアニキ」

翔「ああ・・・ってジン？」

ジン「アニキどうしました？」「何でお前がいるんだ？」「紫苑姉さん

から行き代わるようって」

翔「タイミング悪すぎだろ」

ジン「憐れだなアニキ」

・ 翔はジンから人生終了の知らせを聞きもう終わったと思ってたが・

愛紗サイド

愛紗「星よ、この格好を私にか？」

星「そうだ、この格好で死神は大喜びで発情するだろう」

愛紗「星、恥ずかし過ぎだろ！」

紫苑「確かに星ちゃんの言う通りだよ、翔さんを振り向かせてみないなその格好しないと」

愛紗「紫苑まで！もう・・・分かりました」

さて愛紗は何の服を着たんだろうか？

翔サイド

翔（はぁ・・・愛紗に殺されるよな・・・）

愛紗に殺される事を覚悟してた翔だったが・・・

翔「ただいま戻りました・・・」

愛紗「お、お帰りなさいませ、ご主人様」

翔「・・・えっ？」

いきなり愛紗がメイド服でご主人様って言われた翔はどうすれば良いのか分からなかった・・・

翔「・・・今日何かあったか？」

紫苑「いえ、何も有りませんよ」

星「黒りんよ、愛紗に対して何か言うのは無いのか？」

翔「黒りん！？、星ふざけるなよ・・・愛紗、その・・・可愛いな・・・」

愛紗「あ、ありがとうございます翔殿・・・」

鈴々「あつ、愛紗の顔が赤くなってるのだ！」

愛紗「鈴々！そんな事無い！・・・」

全員「アハハハハ・・・」

翔に言われて、愛紗は照れて楽しそうになっていた所に・・・

白蓮「大変だー！」

翔「公孫贄どうした？」

白蓮「賊の大軍が攻めて来てるんだ！」

愛紗「何！？」

白蓮「愛紗、何でお前その格好だ？」

愛紗「あ、あのこれは・・・」

翔「とりあえず叩きに行きますか、アル！、ジン！」

アルとジン「「わかった！」」

翔とアルとジンは賊を叩きに向かったが・・・

翔「なあ・・・策が無いよな」

ジン「策かあ・・・」

アル「策ならあるよ」

翔「じゃあさっさしろや」

アル「それには、翔にはコイツを着てくれんか？」

翔「・・・はっ？」

アルとジンに無理やり・・・

翔「俺思っんだが、男の娘だよな？」

アル「まあ、大丈夫だろ翔子ちゃ「殺すぞアル」ジンも爆笑だからな」

ジン「いやあ爆笑だよアネキ「死にたいかジン？」笑ってるだけだよ？」

翔「もう良いだろ・・・行こう」

作者も翔の女装、翔子に大笑いしながら書いてます

翔「笑うな作者！」

こんなアホな作戦で、賊に通じるのか？

賊の砦

翔「ここかよ？」

ジン「多分」

アル「どう入るんだ？」

翔「こうすれば良い」

と言うと翔は砦に向かってこう叫んだ・・・

翔「すみませ〜ん！誰かいませんかー！」

デブ「アニキ！良い女がいますよ！」

チビ「隣の男達が連れて来たんじゃないんすか？」

ノッポ「入れてやれ！」

賊1「入れ！」

翔「ありがとうございます、ごめんけど今から死んで」

賊1「えっちょ！」

ザシユ！

翔は近くにいた賊を斬った・・・

アル「ヒュー、怖いねえ翔子ちゃん」

翔「ついでに斬ろうかアル？」

ジン「お二人さん、ここを崩壊させてからな」

翔「ハデに暴れるぜ！」

アル「面白そうじゃん！」

ジン「殺ろうぜ！」

翔は、天翔と天空と月影を装備し、アルはガトリングと剣を構え、

ジンは片手剣とシールドを持ち・・・

翔「ハデに殺ろうぜ！」

翔がそう叫びながら、賊の大將のいる宴会場に向かった・・・

宴会場

ノッポ「良いじゃねえか嬢ちゃん触らせよう」

女「や、止めて下さい！」

ノッポが女の胸を揉みながらそんなことを言いながら幸せに浸っていたら・・・

翔「ちわゝ、殺しに来ました」

アル「と言う訳で」

ジン「さよなら〜〜〜！」

ダダダダ！

ザシュ！

ズサツ！

翔「血祭りじゃ血祭りじゃー！」

ジン「アニキ、男の娘の格好で言ったらアニキの人气が落ちますから・・・」

アル「さすが、死神！楽しそうだな」

ノッポ「くそ、覚えてろよ！」

チビ「覚えてろよ！」

デブ「覚えて「さっさ失せるデブ！」ヒィー！」

翔「ちっ、逃げやがった」

ジン「アニキ、怖いんですけど」

女「あ、あのありがとうございます」

翔「ん？捕まってたのお前だけか？」

女「いえ、まだいます・・・」

賊2「さっきの奴らを捕まえる！」

賊3「敵は少ないから殺せ！」

翔達がさっき脱出した事に賊達が気付いてしまった！さあ、どうする？

翔「さっさ潰す！」

・・・単純だな

砦の地下

子供1「うわゝゝん助けてー！」

子供2「怖いよー！」

賊4「黙れガキ共死にたいのか！」

翔「それはアンタが死んでも良いと言う訳だよな？」

賊4「えっ？」

ゴキッ！

翔は後ろから女装した状態で賊4の首を折った・・・

翔「おい、今開けるから待ってる」

子供1「ありがとうお姉ちゃん！」

カチャン

翔はさっきの賊から牢屋のカギを取り出し開けた

翔「早く逃げろ、後俺は男だ！」

その後賊の砦を徹底的に潰した翔は・・・

翔「ああゝダルかった」

アル「まあ、あんな事が起きればな（笑）」

ジン「お疲れでしたアニキ（笑）」

翔「・・・？お前ら何笑ってるんだ？」

ジンとアル「いや、何でもねえ（つす）」

なぜ、アルとジンが笑ってるかって？それは・・・

帝希

愛紗サイド

愛紗「はああ・・・翔殿遅いですね」

紫苑「そうねどうしたのかしら？」

白蓮「でも、もうすぐ戻るだろ」

璃々「ねえ、お母さん「なーに璃々？」アルさんとジン君と知らないお姉ちゃんが帰ってきたよ」

全員「「えっ？」」

アル「ただいま戻りました」

ジン「戻った〜」

翔「・・・ただいま」

愛紗「すまないどちら様だ？」

翔「ああ、分からねえか、俺だ、死神だ」

全員「「ええー！？」」「」

愛紗「・・・」

翔（うわ、鈍引きだよな・・・）

愛紗（美女だ・・・）

桃香（綺麗）

一刀（男じゃなくても行けるよな？）

翔「一刀、今めっちゃくちやム力つくんだが！」

一刀「えっ？ソナコトナイヨ」

翔「・・・殺す！」

一刀「えっ、ちょー！？」

ボキッボキゴキッ！

皆、女装の翔を見て、女子校に行けるんじゃないかって思ったが本人は嫌がってるが・・・

翔「二度と、女装しねえー！」

また、彼の叫びが響いた・・・

????

??? 「姫様、計画通りに動いてます」

??? 「計画通りね、例の奴は？」

??? 「うまく、行ってます」

??? 「フッフッフ、これで黒宮翔を殺せる」

彼女の後ろには、カプセルがあり、そこに女と男がいた・・・

第六話 男の娘は、孔明の罠！？（後書き）

作者「本編とは関係ないが」

翔「無いんかい」

作者「暇なので、小学生の二人組に最強 × 計画を歌って貰いましょう！」

翔「・・・」

朱里と雛里「はわわ（あわわ）、小学生じゃないですっ」「

作者「良いから歌え」

朱里と雛里「えっーと、プギヤ！」

一刀「あれ？何で鼻血出しながら倒れてるの？」

翔「・・・はあ」

作者「小学生が倒れたので、愛紗ちゃんに歌って貰いましょう！」

愛紗「えっーと私が？」「さあ、歌うんだ愛紗ちゃん！」えっーと、子作りしましょう！」

愛紗が歌い終わった後・・・

桃香「愛紗ちゃんも興味有るんだね」

愛紗「桃香様、私は！」

作者「さあ、愛紗ちゃん！俺と子作りし……」

翔「たあああ！」

ヒュン！

翔「避けた！？」

作者「愛紗は連れて帰るぜ！」

愛紗「助けて下さい翔殿……！」

翔「愛紗、ごめん無理！」

紫苑「翔さん、私と作りましょう！」

翔「ちょ！？紫苑カンベン、アル！」

アル「今日も平和だな」

翔「裏切り者……！」

その後愛紗は帰ってきたが翔は……

翔「帰ってきてるからな！」

第七話 第四の勢力、クロノス！（前書き）

作者「戦闘描写は大の苦手です。」

第七話 第四の勢力、クロノス！

??? ?

??? ? 「姫様、どうしますか？」

??? ? 「そうね・・・十万ぐらいの兵士を蜀に行かせて襲撃するよ
うに」

??? ? 「はっ！姫様の為に」

??? ? 「フッフッフッフ 黒宮翔、これで終わりよ」

少女はナイフを投げた

ヒュン！グサツ！

その刺さった先には黒宮翔の写真があった・・・

帝希 庶務室

翔「あゝあ、何で俺は庶務をしなきゃいけないんだ？」

アル「それはアンタがサボったからだろ」

翔「こんな時に限ってジンはいないし」

アル「俺がやると姉さんに怒られるからな」

翔とアル「はあ・・・ため息つきたいのはこっちだ（俺だ）」

二人は顔を合わせて

翔とアル「泣けるぜ……」

愛紗サイド

愛紗は考えてた、翔殿は多分庶務で疲れてるだろうと思った
しかし、彼に仕事を与えたのも彼女である
ぶっちゃけ、翔が仕事をしないから青竜刀を突きつけながら仕事を
するように脅したのである

愛紗（はあ・・・料理を作って翔殿に食べてもらいますか）

そう、思うと彼女は厨房に向かった・・・

厨房

愛紗は料理を作っていた・・・しかし、出来上がったのは得体の知
れない物体？いや、何か紫色の物体を作った・・・

愛紗（これを翔殿に食べさせれば・・・）

ここからは愛紗の妄想です

愛紗「翔殿！料理を作ってきたので食べて頂けませんか？」

翔「ああ、わかった」

パクッ

翔「やば、これウマイ！」

愛紗「本当ですか翔殿？」

翔「ああ、愛紗が料理作るなら仕事ガンバるな」

愛紗「はい！」

愛紗の妄想終了・・・

愛紗「えへへ、よし持って行こう！」

愛紗は翔のいる庶務室に着いた

愛紗（翔殿、喜んで下さるかな？）

一方内部では・・・

翔サイド

翔「なあ、アル仕事やってくれよ」

アル「はあ？俺が殺されるわ」

翔「へえー、じゃあ棚の下にあるロリ系と貧乳系とスク水系の本を皆にばらすからな」

アル「上等だ！お前が持つてる巨乳系とメイド系と水着系の本ばらすぞ！」

翔「やってみろやロリ龍！」

アル「やってやるよ変態が！」
バチバチ！

二人共、えっちい本を持ってるんですね
まあ、二人共喧嘩してる中
コンコン

翔「はい？」

愛紗「翔殿、料理を持って来ました」

アルと翔「えっ？」

ガチャ

愛紗は料理を持って入って来たが・・・

翔（なあアル、料理だよな？）

アル（うん・・・料理だな）

愛紗「あら、アル殿もいるなら翔殿と一緒に食べて下さい」

翔とアルはどうしようも無かった・・・

アル「じゃあ、食うぜ」
パクッ

アル「× # \$ - !？」

ボタン、チーン・・・

アルは余りの不味さに倒れてしまった・・・

翔（やべえ、アルが倒れてたって事は・・・逃げるが勝ち！）

翔は逃げようとしたが

ガシッ！ぷらーん・・・

愛紗に捕まり釣り上げられた・・・

翔「あ、愛紗？」

愛紗「翔殿、食べてくれますよね？食べないなら無理やりです」

と言うと愛紗は料理？を翔の顔にぶちまけた！

翔「ギャアーー！」

その後・・・

寝室

翔「お前はすぐ治りそうじゃん」

アル「お前は頭に包帯だからな（笑）」

翔「笑えないだろ」

アル「そうだな・・・」

皆、愛紗の料理は殺人が出来るくらい不味いのは知っていたからこんなことを思った

全員（（（憐れ・・・）））

この後、会議が開かれたが

白蓮「あれ、黒宮は？」

愛紗「翔殿なら・・・」

ガタン！

その時皆は驚いた！

何故なら、そいつらは寝てたはずなのだが・・・

アル「会議に間に合った！」

ジン「何で会議に呼ばないんだよ影薄さん！」

白蓮「影薄言っな〜！白蓮だ！」

そして・・・

翔「ゆっくり寝てられ無いからな」

愛紗「翔殿！？」

しかし・・・

翔「頭痛えー！」

アル「やべえ、また吐きそう・・・」

ジン「愛紗さん・・・どうやったらあんな料理が出来るんだ？」

愛紗「私が原因ですか？」

その愛紗の質問に皆頷いた

そして・・・

愛紗「わ、私だってヒック・・・ヒック私だって翔殿のことを思っ
てヒック作ったのにヒック、私はダメダメです・・・」

あらら完全ダメダメになったな

突然愛紗が泣き出した事に翔は・・・

翔（愛紗・・・俺のために・・・）

翔は謝ろうと思いき愛紗に話しかけた

翔「愛紗」

愛紗「ヒック・・・なんてすがじょう殿」

翔「俺のためにありがとな」

愛紗「へっ？」

翔「愛紗が俺の為に料理を作ってくれたのに不味いとか言ってごめん……」

愛紗「翔殿、その……勉強して上手くなったらまた食べてくれますか？」

翔「ああ、楽しみにしてるぜ」

無事、愛紗と翔は仲直りし発展し和やかなムードになってたその時！

兵士「も、申し上げます！」

白蓮「何があつた？」

兵士「見たことの無い軍が襲撃して来ました！」

全員「「何!?」「」」

翔「なあアルまさか……」

アル「第4の勢力……」

ジン「って事は……」

翔「近代兵器を持った奴らかよ!?!」

アル「ヤバいな……」

ジン「ねえ兵士さん、数は？」

兵士「多分、十万です」

翠「十万ってこっちと同じじゃん」

翔「いや、多分二十万の力だ」

桃香「勝てるんですか？」

翔「負ける確率が高いな」

愛紗「どうするんですか！？」

翔「俺とアルとジンで突撃して、五千に減らす！」

愛紗「本気ですか！？」

翔「やらなきゃいけないんだよ！」

アル「モンスター状態の方がたくさん行けるしな」

ジン「アルさん、でも相手はヤバいですよ」

アル「やるだけやれば良いんだよ！」

翔「修羅場だろうが無差別地域だろうが関係ない！」

アル「じゃあ、行きますか」

翔「ああ！」

ジン「やろう！」

しかし

愛紗「私達にもやらして下さい！」

アル「姉さん！これは姉さん達じゃ危険過ぎるからヤバいって！」

愛紗「でも！私達だって出来るはずです！」

翔「・・・桃香を守る部隊と迎撃部隊を至急作れ！」

愛紗「御意！」

愛紗達は皆で桃香を守る部隊と迎撃部隊の配置を話し合い始めた

アル「翔、バカか！？」

翔「アイツらを信じるしか無いだろ」

アル「だけど！」

ジン「アニキ、アルさん行きましょう！」

アル「背中には任せたぜ」

翔「俺のセリフ取るなよ（笑）」

ジン「決めセリフを！」

翔「やあああてやるぜ！」

アル「派手に暴れるぜ！」

ジン「暴れまくるぜ！」

その時、ドラの音が響いた・・・

ドーン！

翔「エンゲイジ開戦！」

ジン「バトルスタート！」

アル「レッツパーティー！」

三人は武器を構え、謎の軍に走り出した

翔「邪魔だあ！」

ズサッ！

翔は周囲の敵を天翔で斬り、天翔を地面に突き刺し高く飛び月影と
天空で蹴り飛ばしたり、首を折ったり、叩きつけたりしてた

アル「オラオラオラオラ、死にたい奴はかかって来やがれ！」

ダダダダ！

ガトリングを撃ちながら、ソードで切り払い、空を飛び

アル「フレイムバーナー！」

火を放った

ジン「桃香さん達の所には行かせねえ！」

ジンは頭の角に電気を集め雷を落とす

ジン「ウオオオオ！俺は今、猛烈に熱血してるうー！」

ジンがチャージをしてそして・・・

ジン「チェンジ！ライトニングフォーム！」

ボカーン！

ジンは体に電気を帯電させ

ジン「ウオオオオ！喰らえええ！」

ジンは叩き潰し、雷を放ち、敵を倒していった

ジン「ウオオオオ！」

ジンは雄叫びを上げながら、勝利を確信してたが・・・

愛紗サイド

愛紗「くっ！？」

カキーン！

愛紗は苦戦してた・・・

愛紗（くっ、翔殿が戻るまではどうにか持たないと・・・）

鈴々「愛紗、そっちに行ったのだ！」

愛紗「しまった！？」

グサッ！

星「何をしてる愛紗、早くするんだ！」

愛紗「あ、ああ・・・」

その時！

翔「愛紗！」

愛紗「翔殿どうしてここに！？」

翔「ある程度片付いたのと心配になったからだ」

愛紗「無事で何よりです」

愛紗と翔が互いの安否を確認して大丈夫だと思われたが・・・

ザッザッ

草むらからいきなり、大量の矢が愛紗を目掛けて飛んで来た！

それをすぐに気付いた翔は・・・

翔「愛紗ー！」

愛紗の前に出てかばった・・・

グサツグサツグサツグサツ！

沢山の矢が翔の体を貫通した・・・

翔「グハッ！？」

愛紗「翔殿！？」

翔「バーカ、大丈夫だって」

彼は自分の体に沢山の矢が刺さっていて立ち上がれないはずなのに
が彼は立ち上がった

愛紗「翔殿大丈夫ですか、今すぐに治療を！」

翔「愛紗、お前は逃げる！」

愛紗「しかし、翔殿！」

その時、敵が撤退し始めた・・・

帝希に帰る途中・・・

翔「くつ、愛紗悪いな」

愛紗「翔殿、あんな無茶しないでください」

翔「けど、あれをするしか無かったんだよ」

愛紗「そうですが、もう少ししたら帝希に着きますから」

翔「あ、ああ」

その時、彼の世界は揺らいだ

翔（無理をし過ぎたか・・・）

そして、彼は倒れた・・・

愛紗「翔殿！？」

愛紗サイド

愛紗「翔殿、翔殿しっかりしてください！」

星「愛紗、どうした？」

愛紗「翔殿が、翔殿が！」

星「傷が深いな、急いで戻れば大丈夫だ！」

愛紗「すまぬ！」

タッタッタッタ・・・・

愛紗は倒れた翔を抱えて馬に乗って戻った

帝希

愛紗「朱里！」

朱里「愛紗さん、どうしたんですか？」

愛紗「翔殿が私をかばって矢が・・・」

アル「コイツはヤバいな」

ジン「アニキ！しっかりしてください！」

朱里「あの、アルさん薬草と薬と包帯を持って来て下さい！」

アル「わかった！」

愛紗（翔殿しっかりしてください！）

こうして、彼らの治療により翔は多少の傷は残ったが治った・・・

第七話 第四の勢力、クロノス！（後書き）

作者「よく死ななかつたよな死神」

翔「ああ」

愛紗「本当に良かったです」

翔「愛紗・・・」

愛紗「翔殿・・・」

作者「愛紗ちゃんは俺の嫁だ！」

愛紗「作者殿、料理食べてくれますね」

作者「ああ、嫁の料理は絶品だからな！」

パクッ

翔「作者、顔が青いよ・・・」

作者「た、多分大丈夫だ」

愛紗「まだまだありますから食べて下さいね」

作者「アハハ・・・死神も食えよ」

翔「バ、バカ食わせるな！」

作者は翔に愛紗の料理？を食わせて・・・

その後・・・

作者と翔は病院行きになった・・・

第八話 対決、黒龍ミラボレアス！（前書き）

翔「戦闘シーンとヤバいシーンがはつきり分かるな」

作者「スゲエ、眠い」

翔「永遠の眠りにつけ」

作者「酷くねえ！？」

第八話 対決、黒龍ミラボレアス！

翔「モンスターの噂がここにも無かったよな」

ジン「ええ、またはずれ？」

アル「翔、これで三軒だぞ・・・」

三人「」「はあ・・・」

アル「どうすんだ？」

翔「宿も探さなきゃな・・・」

愛紗「宿は見つかりました」

翔「愛紗いつからいた？」

愛紗「ついさっきです」

翔「まあ宿に戻るか」

彼らは、白蓮の所を出発し、西に向かいながらモンスターの噂を探しているのだが見つから無いのである

宿

翔「そつちも無いか・・・」

愛紗「はい、しかしどうなってるんですかね？」

翔「さあ？」

アル「近くに何も無いの？」

翠「俺も聞いて来たけど無いな」

全員「はあ・・・」

その時、璃々がある噂を聞いてたらしい

璃々「ねえねえ、翔お兄ちゃん」

翔「どうした璃々？」

璃々「大人の人達が言っちゃダメって言ってたんだけど近くに古いお城があつてそこにアルお兄ちゃんみたいなのがいてるって言ったの」

翔「本当か！？」

璃々「うん！」

翔「お手柄だぞ璃々！」

愛紗「翔殿、行くんですか？」

翔「今日は暗いし明日行けば良いだろ」

愛紗「そうですね、そうしましょう」

翔「紫苑が料理作ってるだろうし行こうぜ璃々」

璃々「うん！」

愛紗「あの、翔殿私は？」

アル「また、無視去れたな」

愛紗「翔殿は私に好意が無いのだろうか？」

アル「・・・」

夜宿

翔「星、飲み過ぎじゃねえの？」

星「そう言いながら翔殿も飲んでるではないですか？」

翔「ああ、たまには飲みたいんだよ」

紫苑「翔殿もたまにはですよね？」

三人「」「あはははは・・・」「」

一刀「翔、お前飲んで大丈夫なのか？」

翔「どうにかなるってーほら、お前も飲めって！」

一刀「そんじゃあ俺も・・・」

翔達は、酒を飲みまくって今に至るが・・・

翔「なあ一刀？桃香ちゃんめっちゃ良い女だよな？」

一刀「ああ、俺も会った時、思ったんだよ」

翔「でも、俺は愛紗も良いと思うんだよ」

一刀「ああ、分かる気がする！」

翔「愛紗何か、ボン・キュ・ボン！だよな？」

一刀「桃香も愛紗より胸はデカイぜ？」

翔「実は、お前が桃香の胸揉んでるんじゃないの？」

一刀「無いから（笑）」

ええ、この二人の話はしばらく続きます

翔「紫苑もさあ、璃々がいるのにスタイル抜群だよな？」

一刀「もう、胸なんかバインバインだからな」

翔「翠も弄りがいが有るからな」

紫苑「翔さん、私も一緒に良いですか？」

翔「あぁだけどまず」

翔は紫苑の胸を鷺掴みし、揉み始めた・・・

翔「その、胸を堪能してからな！」

紫苑「あぁもう翔さん・・・」

一方、一刀は・・・

一刀「桃香」

桃香「ご主人様」

こっちも同じ事をやっていた・・・

愛紗サイド

愛紗「鈴々、璃々よ見てはいけないからな」

星「愛紗よ、本当は黒りんにやられたいのでは？」

愛紗「な、何を言っんだ星！？」

星「本当の事だろう？」

こっちもこっちで面白い事が起きてた・・・

朝 翔サイド

翔（うう・・・昨日の酒がまだ残って頭痛いし）

俗に言う二日酔いである

翔（でも、何かぶにぶにした物が有るし）

彼はぶにぶにした物を堪能したが・・・

翔（ぶにぶにした物？）

紫苑「あら、おはようございます翔さん」

翔「・・・何で紫苑が？」

紫苑「昨日は激しかったですよ」

翔「うう、うあー！」

愛紗「翔殿どうしたん・・・」

愛紗サイド

愛紗（翔殿の叫びが聞こえた？）

愛紗は翔の部屋に向かったが・・・

愛紗「翔殿どうしたん・・・」

愛紗は見てしまった、翔と紫苑が抱き合っていて多分、一夜を過ごしてしまったのだらうと勘違いをしてしまった・・・

愛紗「朝から何をしてるんですか翔殿！」

翔サイド

翔（ヤバい、愛紗に勘違いされてるし！）

翔「愛紗、これは・・・」

愛紗「もう知りません！」

愛紗は翔が言い訳するのに飽きて、怒って行ってしまった・・・

古城に向かう途中・・・

翔「なあ、愛紗・・・」

愛紗「・・・」

翔「・・・」

紫苑「愛紗ちゃん・・・」

アル（ジン、これって修羅場だよな？）

ジン（多分・・・アルさん気まず過ぎるんですけど）

アルとジン（はぁ・・・）

この修羅場がしばらく続き・・・古城に着いた

古城

翔「アル、ジン行くぞ」

アル「了解」

ジン「わかった！」

翔達は古城にいるモンスターを探しに向かったが・・・

愛紗サイド

愛紗（翔殿が悪いんだあんな事をして・・・）

桃香「愛紗ちゃん、彼から話は聞いたの？」

愛紗「いえ、聞いてません」

桃香「戻って来たら話を聞いて上げたら？」

愛紗「・・・そうですね話を聞いてみます」

翔サイド

翔「・・・コイツが古城の持ち主」

ボレアス「ここは人間が近づけない土地だよ？」

翔「俺は死神だからな」

ボレアス「戦うんだろ僕と？」

翔「シュレイド城の黒龍ミラボレアス、貴様を死神黒宮翔の名において封印する！」

ボレアス「僕を楽しませてよ？」

翔「アル、ジン行くぞ！」

アルとジン「おう！」

ボレアス「僕に勝てるのか？」

アルはボレアスに接近戦で挑んだが・・・

ボレアス「動きが読めるんだよ！」

ザシュ！

アル「しまった！？」

ボレアスにアルは腕のガトリングとソードを破壊され、地上に落ちた

アル「ぐはっ！？」

ジン「アルさん！？チクショー！」

ジンは超帯電状態に入るため、電気をチャージし始めた

ジン「俺は今！猛烈に熱血してるー！」

ズザァーン！

ジン「超帯電ジンオウガ降臨！」

ボレアス「僕を楽しませてよ！」

ジンはボレアスに翔び蹴りをかましたが・・・

ジン「止められた！？」

ボレアス「分かりやすいんだよ！」

ボレアスは零距离でジンにプレスをかまし叩きのめした

翔「てめえ、よくも！」

ボレアス「人間は雑魚過ぎるよ！」

ボレアスは翔を地面に叩きのめした

翔（しまった！？天翔が！）

叩きのめられた勢いで翔は天翔を落としてしまった！

翔（くそ、届け！）

天翔まで後、数センチの所で

ボレアス「もう一回ぶっ飛べ！」

ボレアスが翔の体を掴み、愛紗達のいる所に投げられた

ドオオオン！

愛紗サイド

愛紗「翔殿ー！」

愛紗（翔殿今助けに・・・）

ボレアス「君、死にたいの？」

愛紗「あ・・・ああ・・・」

愛紗（私はここで死ぬのか？・・・）

ボレアスは愛紗にプレスを噛まそうとしたが・・・

翔「ジエエエツトマグナム！」

翔はボレアスの顔面に殴り技をかました

愛紗「翔殿！」

翔「何、ボサって・・・」

グシャ！

ボレアス「僕に勝とうなんて甘いよ」

ボレアスの尻尾が翔の体を貫いた・・・

翔「愛・・・紗」

ボタン！

愛紗「翔殿——！」

ボレアス「アハハまた来るからな！」

ボレアスはどっかに飛んだが・・・

愛紗「翔殿！翔殿——！」

第八話 対決、黒龍ミラボレアス！（後書き）

ええ〜翔が今回、いないので作者と愛紗ちゃんしか今いません

作者（愛紗ちゃんを今ならやれるぜ！）

作者は愛紗を呼び出し、後ろから

ガシッ！プニプニ

愛紗の胸を鷲掴みし揉みまくった・・・

愛紗「ちよつと、作者殿！な、何をして・・・」

作者「死神がおらんからな、今のうちにやってしまおうと考えたから」

愛紗「だ、だからってこんなことは・・・」

作者「バインバインであれがしつとりツヤツヤなのにな？」

愛紗「うう・・・」

紫苑「作者さん、何してるんですか？」

作者「何って、嫁である愛紗をいじめてたって・・・紫苑？」

紫苑「今から、私の部屋に逝きましょう」

作者と愛紗は腰が抜けた・・・紫苑の笑顔の後ろにめっちゃ黒いオ
ーラとめっちゃ怖い般若がいたからだ

作者「あ、あのな紫苑」

紫苑「とりあえず行きますか」

作者「た、助けてー！」

愛紗「・・・」

愛紗は空いた口が塞がらなかった

第九話 新たな力、クロスチェンジ！（前書き）

翔「やつと新しい力を使える！」

作者「バリエーションはこれから増えてくるよ」

ボレアス「僕は・・・」

作者「黙れ、僕っ子は苦手なんだよ！」

翔「ツンデレもだろ？」

作者「そう、デレデレと・・・」

アル「本編、初めろや」

作者「・・・」

ジン「番組に最後にプレゼントがあります」

ジン以外「」「」「無いから！」「」「」

第九話 新たな力、クロスチェンジ！

愛紗「翔殿！しっかりしてください！」

翔「うう愛・・・紗？」

愛紗「グスッ、翔殿ー！」

愛紗は怪我だらけの翔に抱きついたが・・・
ゴキッ！

翔「ギヤアアア！？」

怪我してる人に抱きつくのは止めましょう
怪我が悪化する恐れがあります

村に戻ってから・・・

翔「愛紗、俺を殺すつもりか？」

愛紗「いえ、翔殿を殺すつもりは有りません」

翔「お前なあ、怪我してる人に抱きつくって・・・」

翔は村に戻ってから・・・いや村にもどる道から翔は愛紗に説教を
してた・・・

愛紗サイド

愛紗（翔殿に今朝の事を謝らなきゃいけないのに・・・）

翔「なあ、愛紗？」

愛紗（私はいったい何をしてるんだ・・・）

翔「愛紗！」

愛紗「は、はい！何でしょうか翔殿？」

翔「今朝の事だが・・・」

愛紗「・・・わかってますよ勘違いってことは」

翔「ごめんな」

村

愛紗「桃香様、アドバイスありがとうございました」

桃香「愛紗ちゃん、自分に素直なるって事も大事だからね」

愛紗「ハイ！」

しかしその一方・・・

翔「アル、どうしたら良い？」

アル「分からねえよ」

ジン「でも、アイツはまた攻めて来ますよ!」

アル「今、張り合える奴は俺らしかいねえから考えてるんだろ」

翔「俺にもっと力があれば・・・」

ジン「アニキ・・・」

翔「しばらく一人にさせてくれ」

アル「わかった」

愛紗サイド

愛紗「翔殿・・・」

星「おや、どうしたんだ愛紗？」

愛紗「何だ星か・・・」

星「悩んでるんだろ愛紗よ」

愛紗「酔っ払いは悩みが無いから良いよな」

星「そうか？私も悩みぐらいはあるぞ」

ゴクッゴクッ

星は持参した酒を飲みながら愛紗にも薦めた

星「飲んだら、悩みも消えるかもな」

愛紗「真っ昼間から酒を飲むのはお前ぐらいだ」

星「黒りんの事だろ悩みは？」

愛紗「・・・」

星「おや？凶星のようだな」

愛紗「私は分からないんだ、翔殿に対してどうしても怒る事が多いんだ」

星「そんな鬼のような顔だとな（笑）」

愛紗「・・・斬るぞ」

星「お主は冗談も分からないのか？」

愛紗「・・・」

星「愛紗よお前は鬼のような顔では無いぞ、お前が心を黒りんに開かないだけだ」

愛紗「・・・！」

星「よく考えてみるんだな」

アドバイスを言うと星は酒を持ってどこかに行った

愛紗「私は・・・」

翔サイド

翔は滝の所にいた・・・

ザー

翔（天上天下唯我独尊、我ニ新タナ力を授ケヨ・・・）

カタカナなのはなんとなくです

翔は壁にぶつかった時、天上天下唯我独尊を唱え自分なりの考えを見つければ越えていた・・・が

翔（ダメだ、考えが思い浮かばない）

いつものように考えが出なかった・・・

翔は修行用の服、道場服からいつもの死神の格好、黒のロングコートを身に纏い、村へ戻った・・・

村

翔（ボレアスが空中戦に持ち込まれたらこっちはキツいな）

翔が対策を考えてると・・・

翠「あつ、黒宮じゃねえか！」

翔「誰かと思ったらお漏らし將軍」

翠「・・・殴るぞ！」

翔「上等だあ！」

しかし・・・

朱里「す、翠さんここでやるつもりですか？」

翠「黒宮がふざけたことを言うから！」

雛里「翔さんもここじゃ大変ですよ！」

翔「じゃあ、戻ってから殺るぜ！」

宿

翔「翠、かかってこいよ！」

翠「言われ無くても！」

その時！

ドーン！ボカーン！

翔「何事だ！？」

民「ば、化け物が・・・」

翔「化け物？まさか！」

翔はあわてて、宿の外に出たがそこは・・・

翔「そんなバカな・・・」

愛紗サイド

愛紗「急いで、子供と年配の方を！」

愛紗（なぜ、今あれが？・・・）

突然の出来事に焦りを隠せない愛紗、それもそのはず彼女の目の前には・・・

ボレアス「さあ泣けよ！そして混乱してしまえ！」

ボレアスが家に向かって火の球を放った

ボカーン！

愛紗「ああ私はどうすれば・・・」

ボレアス「お姉ちゃん、死にたく無いならこっから消えな」

愛紗「！」

ボレアス「僕はどうなったって知らないからねえ！」ボレアスのブレスが愛紗に放たれたその時！

翔「死なせるかぁー！」

愛紗「翔殿！？」

ボレアス「お前、動けないはずじゃ！？」

翔「確かにアンタの攻撃は効いた、だが！」

翔は天翔を構え・・・

翔「守りたい気持ちがあれば何度も立ち上げれるんだよ！」

愛紗「翔殿・・・」

ボレアス「でも、君の攻撃は僕に通用しない！」

ボレアスは翔に火の球をぶちかました

翔サイド

ボーン！

翔（やべえ、コイツの攻撃を連続を受けたら・・・）

ボレアス「君に考える時間なんて無いよ！」

ボレアスは火の球を放ってる間に翔との間合いを詰めていた！

翔「しまっ！？」

ドゴーン！

愛紗「翔殿ー！」

しかし現れたのは・・・

アル「まったく、こんな所で死んでどうするんだよ死神？」

翔「アル！かばったのか？」

アル「俺はジジイからアンタがこの世界のモンスターを封印するこ
とを手伝うのが仕事だからな」

愛紗「アル殿・・・」

ボレアス「まとめて皆消してやる！」

ボレアスがキレてとてもマズイ状況になってしまったが・・・

翔「行けるよな、相棒？」

アル「へっ、死神から相棒って言われるなんてな、行けるぜ翔」

翔とアル（人間状態）は手を組み武器を構えたその時！

ウオオオン！

謎の鳴き声が聞こえ、翔とアルの体を光が包んだ・・・

????

翔「ここは・・・」

目覚めよ少年・・・

翔「誰だ!？」

少年よ、力が欲しいか?・・・

翔「力・・・」

そう、守るための力だ・・・

翔「・・・皆を守るために力が欲しい!」

少年よ、モンスターと魂を一つにせよ・・・

そこで声は消えた・・・

愛紗サイド

愛紗「翔殿・・・」

ボレアス「スキをみせるんじゃないよ!」

愛紗（翔殿!）

ピカーン!

そこに現れたのは・・・

翔サイド

翔「アル！」

アル「この力を試してみるか！」

翔「行くぜ！」

アル「ああ！」

翔とアル「クロスチエエエエエンジ！」

翔とアルがそう唱えると現れたのは・・・

翔「参上アルティメットクロス！」

アルをモチーフにした防具装備し右腕にガトリング、左腕にソードを装着した翔がいた

翔「これがクロスチエンジ・・・」

愛紗「翔殿・・・スゴいです！」

クロスチエンジ（CROSS CHANGE）

翔がモンスターの力を借りて戦う能力

例えば、アルのガトリングやソードを翔が使うようなもの

翔「これでアンタと戦えるぜ！」

ボレアス「ふ、ふざけるなあ！」

ボレアスは火球を放ったが・・・

翔「よつと」

あっさり避けた（笑）

翔「どうしたそんなものか？」

ボレアス「僕をなめるな！」

ヒュン！

ボレアスは翼を広げ翔んだ・・・

翔「こっちだつてなアル！」

アル（任せる！）

翔は背中からアルの翼を展開し、ボレアスを追いかけた

ボレアス「コイツ！・・・」

ボレアスは火球を放ったが・・・

アル（今の翔には！）

翔「聞かないんだよ！」

天翔で火球を切り裂いた！

ボレアス「何！？」

そして翔はボレアスとの間合いを詰め

アル「必殺！」

翔「ドフラゴンスラッシュ龍殺斬！」

翔はボレアスに必殺技をかました！

ボレアス「うわああああ！」

勝負が着いた・・・

翔「ボレアス、もう良いだろ？」

ボレアス「うるさい僕は！」

アル「諦めろ、アンタの負けだ」

ボレアス「くっ！」

翔はクロスチェンジを解除し、ボレアスを説得していたその時

愛紗「翔殿！」

紫苑「翔さん！」

ボレアス「か、母さん？」

翔「えっ？」

ボレアス「母さん！僕だよ！ボレアスだよ」

紫苑「えっ、えっーと？」

翔「ボレアス、説明してくれ」

ボレアス「人間状態の方が良いよね」

ボレアスは人間状態になった

アル「えっ？」

翔「お前、女？」

ボレアス「僕は女の子だよ」

ボレアス

姿 モンハンのミラボレアス

人間状態はテイルズオブシンフォニアのコレット

武器 ムチ

ついでにジンも

ジン「俺はついでにかよ！？」

ジン

姿 モンハンのジンオウガ
人間状態はテイルズオブシンフォニアのジーニアス
武器 片手剣とシールドブーメラン

その後・・・

ボレアス「紫苑さん、手伝うことあります？」

紫苑「じゃあ、あそこにあるお皿を洗ってくれる？」

ボレアス「はい」

あの後ボレアスは仲間になったが・・・

ジン「紫苑さん、お代わり！」

ボレアス「僕も！」

紫苑「二人とも、よく食べるわね」

翔「いや、違うだろ」

また不思議な仲間が増えた・・・

その一方

????

???

「この世界に翔が・・・」

????「勇行くよ!」

????「ああ、行こうかレウス」

????「翔にあれを渡さないかね」

????「対クロノス用にな」

アタッシュケースの中には銃とダブルドライバーとガイアメモリが入ってた

そして、勇と呼ばれる少年の手にはディエンドドライバーが・・・

第九話 新たな力、クロスチェンジ！（後書き）

翔「作者よ、最後の奴誰だ？」

作者「まあ、次回登場で」

翔「次回登場ねえ・・・」

作者「まあ、忘れる」

翔「ああ」

作者「愛紗ちゃん！今からいろいろやる・・・」

紫苑「作者さん、真面目にしましょうか？」

作者「えっーと紫苑？ギヤアアアア！？」

翔「愛紗、これ大丈夫かな？」

愛紗「さあ、分かりません？」

その後・・・

作者「はあ・・・偉い目にあつたぜ」

翔「何やらかしてんの」

作者「愛紗ちゃんが寝てる所を襲おうとしたら紫苑に捕まり、川に

投げられ、馬に蹴られ、弓矢での代わりにしたんだよ!」

翔「はぁ・・・」

アル「作者さんよ」

作者「何だアル？」

アル「こんなグダグダで良いのか？」

作者「まあ良いだろ」

愛紗「あなたと合体したい・・・」

作者「はい喜んで!」

翔「二回死ねえええええ!」

翔「僕たちは二人で一人の探偵さ」

アル「一人しかいねえじゃん」

ジン「俺は専門家では無い、スペシャリストだ!」

作者「バカっぽい・・・」

アル「上のネタは関係有るのか？」

翔「さあ？」

第十話 怪盗、水谷勇現れる！（前書き）

作者「久しぶりの更新です」

翔「死ね作者！」

作者「第一声がそれ！？」

第十話 怪盗、水谷勇現れる！

翔「ヒマだ」

アル「ヒマだな」

ジン「ヒマだね」

ボレアス「ヒマだあ」

四人「」「」「はあ・・・」「」

愛紗「翔殿！ちゃんと仕事をしてください！」

翔「ええ？？ダルいじゃん」

愛紗「はあ・・・どうして翔殿は・・・」

紫苑「愛紗ちゃん、無理に頼んじゃダメだよ」

ジン「あつ、紫苑さん仕事手伝います」

紫苑「あら？ありがとうねジン君」

ジン「いやあ〜それほども」

ボレアス「誉めてない」

彼らは今、影薄様（白蓮）の帝希にいるがなぜいるのって？

それは数日前のこと・・・

数日前

翔がクロスエンジを手に入れボレアスを仲間にしてから数時間後
翔達は、宿に戻りこれからの考えていたのだが・・・

翔「・・・でアンタは謎の奴に指示されたと？」

ボレアス「そういうこと」

ジン「信じれるわけねえだろ！」

ボレアス「僕は嘘について無い！」

ジン「嘘つくなよ男女！」

ボレアス「うるさい雷犬が！」

アル「お前達黙れ！」

ジンとボレアスのケンカをアルが止めて一喝した

翔（謎の奴が指示・・・）

ボレアス「だってこのロリ犬が！」

ジン「はあ！？それはこっちのセリフだ男女！」

アル「黙れやバカ共！」

翔（・・・分かんない）

アル「だからお前らはな！」

翔「アル」

アル「何だ？」

翔「宿だからな」

アル「ああ・・・」

璃々「アルお兄ちゃん怒られてる〜！」

翔「バカが・・・」

その時

朱里が・・・

朱里「あの〜翔さん」

翔「何やはわわ小学生、斬られたいのか？」

朱里「はわわ！？小学生じゃありません！」

翔「斬るぞ」

朱里「はわわ！？命だけは」

一刀「翔、聞いてあげようよ」

翔「めんどくせえ」

翔が朱里に話を聞いたが内容は・・・

呉の国にもう一人の転生者がいる噂が黒宮翔を探していると

翔（転生者？まあ会いに行ってみるか）

噂では帝希に向かっているらしいのだが・・・

で今にいたる

翔「で探しているのだが・・・」

アル「来るんか？」

愛紗「何か爆音が聞こえませんか？」

ジン「何か来る！」

ブオンブオン！

来たのはマシンディケイダーに似たバイクで運転手はヘルメットで分らない

愛紗「敵襲か！？」

ジン「なら殺りますか！」

アル（人間形態）や愛紗達は武器を構えたが・・・

まさか・・・
翔

翔は気付いたもしかしたらアイツかもしれないと

翔（聞いてみるか）

翔「間違ってたらすまんがお前、^{ユウ}勇か？」

勇「当たったり〜！」

ヘルメットを外すと素顔を表した

^{ミスタニユウ}
水谷勇

姿 テイルズオブジァビスのルーク

武器 ハンドガン（サムライエッジ）

相棒 レウス

翔の幼なじみで翔と同じように、後二人の幼なじみを探してるようだが・・・実は怪盗ブルースである

翔「・・・で何のようだ？」

勇「神様からお届けものを届けに」

翔「神様？」

勇は翔にスーツケースとアタッシュケースを渡した
すると中身は・・・

翔「コイツは！？」

勇「第四の勢力クロノスに対抗するための兵器その名は、ダブルドライバー」

翔「ダブルドライバー・・・仮面ライダーWになれって事か」

勇「大丈夫、俺もライダーだから」

翔「えっ？」

勇はディエンドドライバーを取りだし

勇「変身！」

カメンライド！

ディエンド！

青色のカードが勇を包み、変身した！

勇「どうだ？」

翔「・・・まさか今から？」

愛紗「翔殿！ボコボコにしてください！」

ジン「アニキ！ファイトっす！」

翔「・・・仕方ない」

翔は洪々、変身することにした

サイクロン！

ジョーカー！

翔「変身！」

翔は右手にジョーカーメモリ、左手にサイクロンメモリを持ち、クロスさせるように上に投げて落ちて来た所をキャッチし、ドライバに差し込み、ドライバを変形させた！

翔「コイツは最高だな！」

愛紗「翔殿が変わった・・・」

紫苑「さすが、翔さん」

翔はノリノリである名セリフを言った

翔「さあ、お前の罪を数えろ！」

アル「パクリやがった！？」

ジン「パクったな」

ボレアス「パクったね」

翔「さあ、やろうぜ勇！」

勇「かかってこい、翔！」

翔（WCJ）は勇に接近戦で持ちかけようとしたが・・・
ディエント

勇「他の人を呼びますか」

カメンライド！

G3 X！

イクサ！

勇はG3 Xとイクサ（新型）を呼び出した

イクサ「その命、神に返しなさい！」

アル「ここまできたらこの小説救いようの無いな」

ジン「うん、そうだな」

作者「もう、無理なんだよ（泣）」

一方、愛紗達は・・・

愛紗「翔殿、後ろです！」

桃香「カッコいいよね仮面ライダーの翔さんあ、危ない！」

G3 Xは倒せたが、イクサに苦戦してた

翔（イクサは、接近も銃撃もいけるからな）

翔はメモリをどうするか考えてる間に

勇「翔、スキが有りすぎだよ？」

翔「しまった!？」

勇は後ろから銃撃してきたが！

翔「簡単にやられるかあ！」

サイクロン！

メタル！

翔は当たるギリギリの所でメモリチェンジし、翔はCJからCMに
変わりメタルシャフトを振り回し銃弾を跳ね返した

勇「ヒュー！カッコいいねえ」

翔「どうも、コイツは相性が悪いな」

イクサ「はあああ！」

ヒート！

メタル！

翔はCMからHMに変わり、メタルシャフトでボコボコに殴り・・・

メタル！

マキシマムドライブ！

メタルメモリをメタルシャフトに挿し込み

翔「メタルブランディング！」

ズガン！

翔はイクサに必殺技をかまし倒したが・・・

翔「後は勇だけか」

ルナ！

トリガー！

翔はHMからLTに変わり

翔「はっ！」

勇「銃はあんまり得意じゃないみたいだね翔！」

ダーン！

翔「だけど普通よりは撃てると思うがな！」

ダダダダダ！

勇「決着をつけるか！」

ファイナルアタックライド！

ディディディディエンド！

翔「負けたら何かおごれよ！」

トリガー！

マキシマムドライブ！

翔はトリガーマグナムにトリガーメモリを挿し込み、勇はディエンドドライブにカードを挿し込み、お互いに向けて構えた

勇「ディメーションバスター！」

翔「トリガーフルバースト！」

ドオオオオン！

愛紗「どちらが勝った？」

煙が晴れたが・・・二人は立ってた

翔「やるじゃねえか」

勇「腕を上げたね」

この後勇は翔にマシンガンなどの銃器、マシンハードボイルダー（バイク）、（ハードボイルダーの支援ユニット）リボルギャリー、

ファングメモリを渡した

翔「勇、これからどうするんだ？」

勇「帝希を観光する（笑）」

翔「単純だな」

第十話 怪盗、水谷勇現れる！（後書き）

作者「レッツゴー仮面ライダーを見に行っただぜ！」

勇「感想は？」

作者「完璧だよ！」

翔「その影響でライダーをか？」

作者「いや、前から」

ジン「何で俺達はライダーじゃ無いんだよ」

作者「そのうち出すから」

ジン「よっしゃあああ！」

翔「作者よ、なぜショッカーがいるんだ？」

ショッカー「イー！」

作者「ショッカーは愛紗ちゃんを調教じゃなくて、レッツゴーライダーキックを歌わせる為に、レッスンで来てもらった」

ショッカー「イー！」

勇「ホントは就職口が無いから求人に来てって言ってるよ」

シヨツカー「イー！」

作者「準備が出来たみたいだ、行こうぜ」

作者は翔と勇を連れて会場に行った

会場

愛紗「ありがとう皆ー！」

シヨツカー「イー！」

翔「これが？」

作者「俺はWの主題歌、WBX ダブルボイルドエクストリームが
良いな」

翔「知るかああああ！」

第十一話 サボりと酒（前書き）

久しぶりの更新です

第十一話 サボりと酒

翔「クロノス…」

勇「奴らの目的は不明だが、僕らを潰すことだろうと思う」

翔「思う？他に有るのか」

勇「分から無いよ、噂では知り合いがいるらしいからな」

翔「夏菜と元以外にか？」

勇「噂では、赤義^{アカギ}がトップらしいのだが…」

翔「赤義？赤義って俺達が中学生の時の同じクラスだったアイツが？」

勇「たぶん…」

翔と勇は戦ったあの後、帝希の食堂で互いの情報を提供し合っていた

翔「とりあえず、何か食おうぜ」

勇「オツケー」

翔と勇は料理を頼み、食べていた

そこに

星「おや？黒りんと勇殿では有りませんか」

翔「星、黒りんと呼ぶなって言わなかったか？」

星「はて？私は言われて無いのですが」

勇「プツ、翔が黒りん？マジ笑えるんですけど（笑）」

翔「勇、笑いごとじゃないだろ」

勇「いや、笑えるじゃん」

星「そういえば、愛紗達が探してましたよ」

翔「愛紗が？」

翔と勇は愛紗達に呼ばれ行った

帝希 会議室

愛紗「翔殿、仕事をサボってどこに居ましたか？」

愛紗は、笑顔で笑いながら青竜刀を構えて待っていた

翔サイド

翔（どうも、黒宮翔です）

翔（ただいま、愛紗に拘束されてます）

翔はイスに縄で拘束されていた

翔「愛紗、ほどいてくれ」

愛紗「嫌です」

翔「何で？」

愛紗「翔殿が会議出なかったからです」

翔「俺が出る必要がある？」

愛紗「はい、貴方は一人の將軍ですから」

翔「わかったから縄をほどいてくれ」

愛紗「嫌です、まだ会議有りますので」

ガチャン

翔は会議室に残されたが・・・

勇「翔、賭レースに行か無い？」

翔「行きたいが・・・って勇、どこから来た？」

勇「屋根から（笑）」

翔は上を見たが・・・

翔「何もねえじゃん」

勇は翔に透明のワイヤーを見せた

勇「カモフラージュタイプだからわからないよ」

勇は翔に話しながらナイフで縄を斬つてた

プチっ

勇「さて、行こうぜ」

翔「了解」

翔は勇に引つ張られ、屋根に上がり、屋根を渡りながらレース場に向かった

愛紗サイド

愛紗（翔殿も懲りたでしょう）

桃香「翔さんがいじめて無いと良いけど」

一刀「まあ黒宮だから大丈夫だろ」

朱里「でも、寝てたりしてたら…」

愛紗「その時は、叩き起こすだけだ」

愛紗達が会議室に向かっている間そんなことを話していたが…

会議室 前の廊下

朱里「愛紗さん、ここに翔さんが？」

愛紗「どうした朱里？」

朱里「人の気配がしませんが…」

愛紗「何だって!？」

一刀「ウソだろ!？」

桃香「と、とりあえず開けてみようよ!」

ガチャ

会議室

中には翔は居なく、手紙があつた

桃香「し、朱里ちゃん手紙を呼んでみて」

朱里「はわわ、はいです」

手紙の中身は・・・

翔「勇と賭レースに行つて来る（笑）」

と一言書いてあつた

愛紗「しゅーっどの（怒）」

一刀「愛紗、怒ってるよな？」

桃香「う、うんどうしようご主人様…」

愛紗「ご主人様、桃香様（怒）」

一刀と桃香「はい！？」「」

愛紗「私は翔殿を連れて来ます（怒）」

愛紗は言つと青竜刀を持って行き、翔を探しに行った…

一刀「翔、無事だと良いな」

そのころ翔は…

翔サイド

翔「これで、五十勝！」

勇「やっぱ、すげえな翔！」

翔と勇は賭レースで連勝した後、賭場に行つてた…

男1「ああ、やっぱ黒宮將軍には負けるわ」

女1「翔様、カッコいい」

翔「ああサンキュー」

勇「翔、何か飲むか？」

翔「テキーラのストレートを一つ〜！」

勇「ああ〜ハイハイ、すいません〜お酒のおかわりお願いします」

店員「はい、酒一つ〜！」

その時

愛紗「翔殿？お迎えに参りました」

翔^{あつや...}

その後翔は・・・

ここからは音声だけで（笑）

翔「あはは…愛紗？」

愛紗「はい？」

翔「まだ遊んで良い？」

愛紗「ダメです」

翔「まだ、遊び足りないんだが」

愛紗「仕事が終わってからです」

翔「えっ？愛紗、何で青竜刀？ちょ待て！？」

翌日

翔「勇、賭場に行けなくなった」

勇「あれ？お持ち帰りがバレた？」

翔「してねえし、酷い目にあった」

勇「あつ、そういえば呉に連れて行かなきゃ行けなかった」

翔「今！？何で呉に？」

勇「そこに所属してるから」

そんな訳で翔は呉に向かう事になった

翔「お前、マシンディエンダー動かせるのか？」

勇「ああ、ハードボイルダーも良いみたいだね」

アル「何で俺は翔ばなきゃ行けねえんだよ」

ジン「歩きたく無い」

勇「分かったよ、サイドバツシャーを出すから」

勇はサイドバツシャーを出すと、アルとジンに乗せた
アル「ジン、運転するか？」

ジン「いや、アルさんがやって下さい」

アル「んじゃ、ゴーグル着けな」

アルとジンはゴーグルを着けると翔と勇の後を追いながら呉に向か
った

第十一話 サボりと酒（後書き）

作者「今回はグダグダだ」

翔「でも、キーワードが隠れてるんだろ」

作者「読者様から意見を貰いました」

翔「だから、笑いと裏ネタと裏エピソードを書くത്？」

作者「そういうこと」

翔「原作のキャラはゲスト出演か」

勇「オリキャラは毎回ねえ」

作者「皆さま、これからも恋姫無双 伝説のモンスターと最強の死神をよろしくお願いします」

第十二話 呉の王、孫策（前書き）

ご感想をよろしくお願いします

第十二話 呉の王、孫策

翔「勇、後どのくらいだ？」

勇「もう少ししたら着くと思うよ」

アル「ほとんど砂漠じゃんこの辺」

ジン「でも、自然もあるじゃん」

翔「あつ、あれだ」

翔達は帝希を出て呉の国、海砂カイズにバイクで向かってた…

海砂

兵士「水谷様、お戻りになりましたか」

勇「何かあったの？」

兵士「孫策様が早く、帰って来なさいと」

勇「・・・怒ってた？」

兵士「はい、お酒と肴がいるのではと」

勇「用意してる？」

兵士「もちろんです」

勇は兵士から酒と肴を貰うと城へ向かった

翔「勇、それは？」

勇「ウチの大将さんが怒ってる時の対策」

翔「・・・」

アル「翔！刺身が美味いぜ」

ジン「このアユの塩焼きサイコー！！」

アルとジンは屋台の魚料理を食ってた…

翔「観光しに来たんじゃ無いぞ」

勇「まあ良いじゃん」

観光してたら…

???「あら、勇戻ってたんだ」

勇「蓮華、雪蓮どうなってる？」

勇は、ピンク色の髪の子に聞いてた

翔（アル、あれは誰だと思っ？）

アル（孫家の人間だろ）

ジン（でも、孫策か孫権じゃない？）

翔（まあ聞いてみようぜ）

アル（ところで翔、何故寿司を食ってる？）

翔（ん？腹減ったから）

アル（結局、翔もじゃん…）

勇「翔？翔！聞こえてる？」

翔「ん？何だ勇？」

勇「翔紹介するよ、こちらは、」

蓮華「孫権です、あなたが死神ですね」

翔「俺は黒宮翔、よろしくな孫権」

勇「雪蓮達にも会った方が良いかな？」

蓮華「姉さまも会ってみたいらしいけど…」

勇「やっぱ、怒ってた？」

蓮華「ええ…」

翔「？」

翔達は何にも分からないまま勇に連れて行かれた

海砂 会議室

雪蓮「ああゝもう勇遅い！！」

冥林「少し待たないか雪蓮？」

雪蓮「だってさあゝ死神を連れて来るって言ってたじゃない」

冥林「それがどうした？」

雪蓮「遅すぎるのよ！！」

冥林「はあ……」

冥林がため息ついたのは雪蓮が待つ事が出来ないからだ

冥林（勇、早く戻ってこい）

その時

バン！

勇「ただいま」

雪蓮「遅い！！」

蓮華「冥林ありがとう」

冥林「死神は連れて来たのか？」

勇「うん、翔！」

翔「聞こえてるぜ勇」

愛紗サイド

愛紗（翔殿大丈夫でしょうか？）

桃香「愛紗ちゃん」

愛紗（私もついて行けば良かった…）

桃香「愛紗ちゃん？」

愛紗「はあ…」

桃香「愛紗ちゃん！」

愛紗「は、はい何でしょう桃香様!？」

桃香「心配？」

愛紗「な、何がですか？」

桃香「翔さんが心配なんですよ」

愛紗「な!？」

桃香「どうなの？」

愛紗「そ、そうです・・・」

桃香「帰って来たら、ね？」

翔サイド

雪蓮「翔、貴方最高！」

翔「雪蓮も最高だぜ!!」

雪蓮と翔「アハハハ」

冥林「勇、お前とんでも無い奴を連れてきたな」

勇「まあ、許してよ冥林」

冥林「仕方ないな」

アル「しゃあないしょ冥林」

冥林「この苦勞の理解者がいて良かった」

明命「はああ、お猫様！」

ジン「苦しい」

ジンは小さくなり、ぬいぐるみみたいになってる

蓮華「思春、どうすれば良いかしら？」

思春「蓮華様、どうにもならないでしょう」

蓮華「はぁ……」

翔「どんどん飲むぜ！」

雪蓮「浴びるほど飲むわよ！」

その時

冥林「お前らは飲むの辞めろ！」

冥林の平手打ちと説教により、翔と雪蓮は反省した

一時間後

雪蓮「今、天の御遣いは三人いると？」

勇「翔、俺、一刀でしょ」

翔「で桃……じゃなくて劉備の所に二人」

冥林「雪蓮の所に一人か」

翔「だが、魏の曹操の所にもいると思う」

ジン「マジかよ!？」

アル「多分だがな」

レウスの「タイプは？」

翔「そうだな…ってアンタは？」

レウス「勇のパートナー、レウスだ」

レウス

姿 テイルズオブヴェスペリアのカロル

武器 ツインハンドガン

悩み

身長が伸びない事

レウス「よろしく!!」

翔「よろしくなチビ」

レウス「チビ言うな!!」

アル「チビだからしゃあない」

レウス「だからチビ…」

ジン「牛乳飲んでも伸びないんじゃ？」

レウス「・・・ちくしょー！！」

と言うとレウスは窓を突き破って翔んで行った

翔「大丈夫なのか？」

勇「まあ、帰って来るしょ」

こんな感じでしたら話は続いた

第十二話 呉の王、孫策（後書き）

翔「今回もグダグダだな」

作者「すいません」

翔「あれ？作者、調子悪いのか」

作者「体育で倒立の練習がキツイ」

翔「それは愚痴だろ」

ボレアス「僕が教えようか？」

作者「僕っ子は嫌いだー!!」

ボレアスの「ちょー!？」

翔「作者も酷い事言っただな…」

第十三話 ダブルvsディエンド（前書き）

かなりグダグダです

感想をよろしくお願いします

第十三話 ダブルvsディエンド

翔「なあ、勇」

勇「どうした翔？」

翔「お前まだ怪盗を続けてるのか？」

勇「今はやって無いよ・・・多分（笑）」

翔「・・・まあいいか、お前変装とか潜入系の仕事得意だが、戦は専門じゃないんじゃない？」

勇「確かに潜入系が専門だけど、今は格闘も使うようにしてるよ」

翔「そうだな・・・」

翔が窓から外を見ると・・・

明命「アイルー様、警備に行きましょう！-！」

アイルー「ニャー！」

明命の後に十人いや、十っ匹連れて警備に行った

翔「・・・平和だな」

勇「そう？」

その一方…

愛紗サイド

紫苑「愛紗ちゃん、これも良いんじゃないかしら」

紫苑は愛紗に黒の下着を渡したが

愛紗「紫苑、これ小さく無いか？」

紫苑「当たり前じゃない、小さく方が誘えるわよ」

愛紗「はあ…」

翔サイド

翔「なあ、勇」

勇「何だい翔？」

翔「暇だな」

勇「じゃあまたライダーバトルする？」

翔「面白れえ」

二人は、城から離れた森に向かった

離れた森

翔「さて、一本勝負やる」

勇「もちろん」

翔はダブルドライバーを装着し、サイクロンメモリとジョーカーメモリを取り出し、勇はディエンドドライバーにディエンドのカードを挿し込み

翔と勇「変身!!」

サイクロン!

ジョーカー!

カメンライド!

ディエンド!

翔は(WCJ)に変身し、勇はディエンドに変身した

が…

ギアァオン

翔「ファング?」

ファング「ギアァオン!」

翔「ファングジョーカーになれと?」

ファング「ギアァオン!」

翔「じゃあないな」

フアング！

ジョーカー！

翔は一旦、変身解除してからFJに変身した

翔「フアング、力を貸してくれよ」

勇「さて行くよ」

^{ディエンド}
勇は翔（FJ）に先制攻撃をかけたが：

翔「何度も同じ手にかかるかよ！」

ギャアッオン！

ショルダーフアング！

翔は肩から出たフアングブレードを取り、勇に投げつけた

勇「あつ、ヤバ！」

バーン！

勇は翔が投げつけてきたフアングブレードを撃ち落とそうとしたが

ガキーン！

勇「くっ！」

翔「ガンガン行くぜ!!」

ギャアッオン!

アームフアング!

翔の腕からフアングブレード出てきた

勇「やるしか無い!」

アタックライド!
ファイズエッジ!

勇はファイズエッジで応戦したが

翔(この一撃で決める!)

ギャアッオン!
フアング!
マキシマムドライブ!

勇「なら!」

ファイナルアタックライド!
ファファファファイズ!

勇のファイズエッジが赤く光出した!

勇「クリムゾンスラッシュ!!」

翔「フアングストライザー!!」

お互いの必殺技がぶつかりあった・・・

ドオオオオン!!

その後…

冥林「派手にやってくれたな二人共」

翔「何かまずかったか？」

冥林「クレーターが出来た事に決まってる!」

勇「クレーターより小さいから良いじゃん」

冥林「埋めなさい」

勇と翔「はい…」

この後、二人は昼飯抜きでクレーターの穴埋め合わせをしました

穴埋め後翔達は、モンスターの情報を聞いた

翔「黒い獣？」

アル「近所の人からそう言われてる」

翔「この際だから行くか」

勇「わかったじゃあ、行こう」

翔達は、黒い獣を狩りに行った

????

???「姫様、水谷と翔が接触しました」

???「大地、貴方はどう思う?」

???「俺は、泳がせておくのが良いと思う」

???「あら珍しいわね、大地がそんな事言うなんて」

???「そうですか?」

姫ヒメと呼ばれてる女と大地ダイチと呼ばれる男の所に

???「大地の本音は、翔を殺す事やる」

???「桜夜サクヤいつから聞いてた?」

???「アンタらが翔達をどうするかって所から」

???「最初からじゃない」

???「大地、翔を捕らえる事が目的やからな」

????

「統魔^{トウマ}、どうする？」

「シャルダ華林達に伝えろ、兵の準備をしろ、と」

「わかった」

「さて、翔の様子を見に行くか」

翔達が黒い獣を狩りに行くころ、二つの勢力が動き始めてた・・・

第十三話 ダブルvsディエンド（後書き）

作者「今回は内容がダメダメなので、あとがきにゲストとを呼んでます」

翔「ゲストか…」

勇「僕がいて大丈夫か？」

作者「勇の誕生は簡単だ」

翔「何で？」

作者「どっかのお坊ちゃんだけど、実は怪盗みたいな（笑）」

勇「単純だね」

翔「俺は？」

作者「刹那が好きだし、翔と言う字が好きだから（笑）」

翔「単純だな」

勇「今回はモンスター戦だね」

作者「黒い獣だ」

翔「二大勢力ってなんだ？」

作者「片方は天の御遣いとクロノスだ」

勇「次回もお楽しみに」

作者「それは翔が言う所だろ」

第十四話 迅獣、ナルガクルガ（前書き）

作者「今回は、あれが出てきます」

翔「と言うよりターゲットだな」

勇「動きが速いからねえ」

アル「本編をどうぞ」

第十四話 迅獣、ナルガクルガ

翔「黒い獣…」

アル「まあクロスチェンジをすれば倒せるだろ」

ジン「そういえば場所は？」

勇「近くの森らしいよ」

レウス「何で雪蓮達もいるの？」

雪蓮「え〜？アタシ達も行きたい〜」

勇「危ないからダメって」

翔「まあ、勇が守れば良いだろ」

勇「うーん仕方ないな」

雪蓮「わーい！」

翔「大変だな…」

彼らは今、森にいる黒い獣を狩りに行ってるのだが…

翔「これ遠足のノリだな」

アル「大丈夫か？」

翔「大丈夫な訳ねえだろ」

こんな遠足気分で近くの森に向かって行った…

近くの森

翔「そういえば、情報聞いてないよな」

アル「ああ、黒い獣に関してだろ？」

翔「ああ」

勇「僕達も援護するから」

翔「てか、クロスチェンジ出来たんだよな？」

勇「うん」

レウス「僕達の力なめ…」

翔「チビ黙れ」

レウス「最後まで言わせてよ！？」

ジン「チビに言う価値なし！」

アル「酷い事、言っただな」

レウス「良いし、どうせ僕何か・・・」

勇 いじけた

翔 いじけたな

アル（いじけた）

ジン（いじけたねえ）

その時、雪蓮は何かの気配に気づいた

雪蓮「ねえ、何かの気配を感じるんだけど」

冥林「雪蓮、それは私も同じだ」

勇「気配を感じる？」

その時！

翔「勇！ハンドガンを貸せ！」

勇「えっ！？わ、わかった」

勇は翔にサムライエッジを投げると、翔は雪蓮達がいる方向に構え…

勇「えっ、翔！？」

翔「雪蓮！屈め！」

雪蓮「わかった！」

バーン！

翔が撃った先には…

ナルガ「グギヤアアオーン！？」

アル「ナルガクルガ！？」

ジン「黒い獣ってそういう事？」

勇「多分ね、雪蓮達は下がってて」

雪蓮「わかったわ」

勇「レウス！」

レウス「わかった！」

勇とレウス「クロスチェンジ！」

勇の体を光が包み、そして…

勇「クロスレウス！」

翔「ヒュー、カッコいいな」

勇「でしょ？」

クロスレウス

姿 モンハンのレウスS装備

武器 ツインハンドガン

特徴 レウスの翼で翔ぶ事が出来る

勇「レウス、行くよ！」

レウス（わかった！）

翔「俺達も負けてられねえなアル！」

アル「わかってるって」

翔とアル「クロスチエエエンジン！」

そして…

翔「クロスアルティメット！！」

翔と勇はナルガに向かって武器を構えたが…

ナルガ「グギヤアアオン！」

電光石火の速さで殴ってきた

翔「ちょ！？」

ズガン！

翔「痛え〜」

勇「かなりヤバく無い？」

レウス「ヤバいって言うよりスピードが速い」

アル「追いつけば良いって事だろ？」

翔「そうだな、行くぜ!!」

翔はナルガに向かってガトリングを撃ったが

ナルガ「ガルルルウ…」

あんまり効いて無いみたいだ

翔「あいつ、化け物か!？」

ジン「いや、化け物だろ」

レウス「いや、モンスター…」

翔とジン「黙りやがれチビ!!」

レウス「・・・」

彼らに勝ち目は有るのか？

第十四話 迅獣、ナルガクルガ（後書き）

作者「さて、今回も適当に終わりました」

翔「次の話は今回の後半戦だな」

勇「後、僕がクロスチェンジを使った事だね」

作者「速く愛紗達に会いたい」

翔「次、愛紗達に会えた時って…」

レウス「あれだね」

レウス以外「……黙りやがれチビ……」

レウス「酷い!?」

第十五話 第二の力（クロスチェンジ）（前書き）

作者「また、翔に新たな能力が！」

ジン「翔、カッコいいー！」

翔「・・・どうも」

第十五話 第二の力（クロスチェンジ）

勇「翔！コイツどうするの？」

翔「どうするって倒す以外何があるんだよー！」

勇「僕にそんな事」

勇は、ナルガクルガの頭に

勇「聞かないでよー！」

銃弾を浴びせたが…

ナルガ「ギャオーン！」

レウス（あんまり効いて無いみたいだけど…）

勇「いや、怯んだよ」

翔「なら！」

翔はガトリングで牽制しながら

翔「接近戦に持ち込むー！」

翔はソードで切りつけたが…

ナルガ「ギャウツ！」

ナルガは右前足で止めた！

翔「チッ！コイツ何なんだよ！？」

アル（ガトリングを避けて、ソードを止める…普通なら無理なはずだ）

翔「アル！しゃべってる暇あるなら、代わりにやってくれ！」

アル「ああ…って出来ねえだろ」

ビシッ！

翔「ぐはっ！？」

翔はナルガの尻尾に打たれた

翔「打ちやがったな！？親父にも…」

アル（翔、自主規制！）

翔「もう、ヤケクソだ！！」

勇「ヤケクソなら仕方ないか」

と言うと勇はツインハンドガンに合わせて一つの銃にした

レウス（勇、いつでも撃てるよ！）

勇「よし！必殺！」

勇はエネルギーチャージしながら、照準をセットした

勇「フルブラストシュート！」

ズガン！

勇はナルガに必殺技をぶちこんだが…

ナルガ「ギャルルルウ…」

勇「えっ？効いてない？」

ナルガ「ガルルルウ！」

ブウン！

ナルガが勇に連続で殴りかかってきた

勇「くっ！？」

翔「勇！」

翔は勇に近付こうとしたが…

ナルガ「ガルルルウ！」

翔「くっ！？」

雪蓮「勇！」

勇「雪蓮、来ちゃダメだよ！」

雪蓮「私だつて戦うわ」

雪蓮は腰にある南海霸王を引き抜き、ナルガに立ち向かったが…

ナルガ「ギャウツ！」

ナルガは尻尾からブレード状の物体をテールブレード雪蓮に撃ち込んだ

勇「雪蓮！」

バン！

勇は雪蓮に向かってくるテールブレードを撃ち落としていた

が…

勇「くっ！」

雪蓮「勇！あなた肩ケガしてるじゃない！？」

勇「大丈夫だよこのく…らい」

翔「勇、無理すんな」

勇「翔・・・」

雪蓮「黒宮…」

翔「雪蓮、勇を安全な所に」

雪蓮「わかったわ」

勇「レウス、ごめんね」

レウス「勇、けっこう傷やばいよ」

勇とレウスはクロスチェンジを解除し、雪蓮と一緒に、退却した

翔「さて、かなりヤバイ状況だけど、どうする?」

アル（はあ!? ヤバイも何も、絶体絶命だろ）

翔「そうだな」

その時!

ジン「俺を、なめんじゃねええええ!」

ブウン!

ナルガ「グギヤアアオン!?」

翔「ジン! 助かった」

ジン「兄貴、俺も今ならクロスチェンジがいける気がする!」

アル（どうする?）

翔「やるしかないだろ」

翔は、クロスチェンジを解除し、そして

翔「ジン、行くぜ!!」

ジン「オウ!!」

翔とジン「クロスチェンジェンジ!!」

翔とジンはクロスチェンジをし、そして…

翔とジン「クロスジンオウガ!!」

クロスジンオウガ

姿 ジンオウガ装備

武器 体術

特徴 四足歩行で行動し、電気を操り戦う

翔「かなり、体が軽くなった気がする!!」

ジン（翔、コイツなら戦える!!）

翔はナルガに向かって翔び

翔「ハアアアッ!!」

ジン（必殺！）

翔「ライトニング！」

翔とジン「クラッシャアアアー！」

翔は丸くなり、空中で回転し、電気を纏い、突っ込んだ

ナルガ「グギヤアアオン・・・」

翔達はナルガを倒したが…

ナルガ「グギヤアアオン！？」

翔「何だ！？」

勇「ナルガが泣いてる？」

雪蓮「もしかして、あれ死んだんじゃない…」

アル「まさか？」

アルは近づいてナルガの体を触れてみると…

アル「・・・死んでる」

翔「原因は？」

アル「何かで切り裂かれた後がある」

翔「切り裂かれた？」

アル「しかも、物理的な物じゃない」

翔「と言うと？」

アル「・・・わからねえ」

彼らは、分からなかった

魏の天の御遣いがナルガを殺した事を…

海砂 城内

兵士「黒宮様！」

翔「何だ？」

兵士「至急、蜀と言う国に向かってください」

翔「・・・？」

アル「行ってみようぜ」

ジン「行こう行こう！」

翔「・・・ああ」

翔達は蜀に向かった…

勇「劉備が動き出したね」

雪蓮「ええ」

冥林「我らの敵になるんだろうか」

蓮華「黒宮が相手ならマズイわね」

雪蓮「いや、味方になると思うわよ」

雪蓮達が翔達につぶやいてた事は聞こえて無かった…

第十五話 第二の力（クロスチェンジ）（後書き）

3万PV突破!!

翔「良かったな作者」

作者「次回は、番外編か本編です」

翔「番外編はもし俺達が探偵だったらシリーズだ」

作者「本編ではついに翔が蜀のメンバー全員に会っな」

翔「ついに蜀か…」

作者「そしてついにあの子が登場!？」

翔「あの子って？」

作者「イメージと違う子だ!!」

作者と翔「次回をお楽しみに!」

3万アクセス記念！ 番外編 もし翔達が？？だったら・・・探偵編（前書き）

翔「今回は番外編だ」

作者「いやゝ書いてて楽しかったな」

ジン「でも、登場メンバー少ないな」

作者「仕方ない」

翔「では」

全員「どうぞ！-!」

3万アクセス記念！ 番外編 もし翔達が？？だったら・・・探偵編

これはもし翔達が探偵だったらの話です

ここは朱桜^{アカザクラ}、さまざまな人がいる町だ
皆がさまざまな目的を持って生きている
が…

その中には、この町を壊そうとしている奴もいる
そしてここにこの町を守ろうとしてる奴がいた…
とある探偵事務所

翔「俺は黒宮翔、この町でハードボイルドに生きる男だ」

翔はコーヒーマシンのブラックを飲みながら呟いた

翔「この町は俺の故郷であり、俺の庭だ」

翔は本を読みながら呟いた

翔「もともとは俺の師匠、おやつさんにあこがれて…」

その時、事務所のドアが勢いよく開いた！

アル「翔、仕事が入った！」

入って来たのはアルだった

翔「アル、人が話してる時に話すなよ!!」

アル「えっ？知らないよそんなこと」

翔「俺の自己紹介はどうするんだよ？」

アル「大丈夫でしょ」

黒宮翔

おやつさんにあこがれてこの事務所に来た男

服は仮面ライダーWの左翔太郎みたいな感じ

性格 ハードボイルド？

アル

昔、おやつさんに助けられた男

翔とはコンビが長い

服は仮面ライダーWのフィリップが少し活発的な？

性格 冷静、少し常識知らず？

翔は行動、アルは頭脳、この不思議なコンビがなす仕事は探偵と言
うより、何でも屋に近い

事務所は仮面ライダーWと同じ

翔「で仕事は？」

アル「ジン警部から頼まれた」

翔「はあ！？またジン警部の？」

アル「やらんかったら、また署まで来てもらうって」

翔「・・・しゃあねえな、で内容は？」

アル「最近噂の少女誘拐犯のアジトに潜入しろと」

アルは翔にジン警部から渡されたファイルと資料を見た

ジン警部

翔を昔から知る男である

若くイケメンだが翔達に仕事を押し付けて自分は無線で競馬の放送を聞いてたり、仕事中にカジノに出かけたりとダメな人だ

服は、仮面ライダーWのマッキー（真倉）である

翔はファイルに載って男を見て思った

翔（ロリコンに見えるな）

アル「男の名前は北郷一刀、職業は高校生らしいが・・・」

翔「学生が犯罪者かよ・・・」

アル「今じゃ普通じゃねえの」

翔「普通じゃないだろ」

アル「潜入頼んだ」

翔「また改造？」

アル「そのうち使っさ」

と言うとアルはガレージに入って行った…

翔「はあ…仕方ない俺一人で行くか」

翔は仕方なく行くことになった

とある倉庫

翔「ここに犯人が…」

翔はバレないように潜入した

翔「犯人は3人か」

その中に主犯の北郷一刀がいた

犯人1「どうするんだよ一刀？」

一刀「売り飛ばせば高く売れるさ」

犯人2「しかし、警察に気づかれて無いよな？」

一刀「大丈夫、それよりあの女連れて来いよ」

犯人1「分かった」

犯人1はあの女を連れてきた

愛紗「離せこの外道！」

犯人1「おっと、大人しくした方が良いでしょう」

愛紗「くっ！」

犯人1は愛紗にナイフを突きつけた

あれがターゲット・・・
翔

翔は気づかれないように動いたが：

ゴォン！

翔（ヤバい！？）

犯人3「誰だ！」

犯人3は翔の存在に気づかなかった

犯人3「ちっ、いねえのかよ」

一刀「まあ気にするな、もう少ししたら金と女が手に入るんだから」

犯人3「そうだな」

犯人2「早くしよっぜ」

一刀達は、車のトランクに銃を積み込んでいた

翔（今だ！！）

翔は気づかれないよう愛紗に近づき、逃げようとしたが…

犯人2「侵入者だ！！」

犯人3「撃ち殺す！」

一刀「女に当てるなよ」

一刀達は翔に向かって発砲してきた

翔「なあ、アンタ名前は！？」

愛紗「私か？私は愛紗だ」

翔「俺は黒宮翔、一応探偵だ！」

愛紗「助けに来たのか？」

翔「そういうことになるな」

その時、いきなりフェラーリが突っ込んで来た！！

全員「えっ！？」

出てきたのは・・・

アル「よう翔助けに来た」

食パンを加えながらアルがフェラーリから出てきた

全員（アンタはマンガの女子高生かよ！？）

そんな下らない笑いに包まれてる間に翔達は、フェラーリに乗り込み逃げた…が

一刀「奴らを追いかける！！」

一刀達は翔達に向かって銃を撃ちまくってきた！

翔「アル！何か無いのか！」

アル「後ろの席にスーツケースが有るだろ」

翔はスーツケースを開けてみると…

翔「コイツを使え！？」

翔「取り出したのはマシンガンだった」

アル「それで行けよ」

翔「どうなっても知らねえぞ!!」

ガガガガ!!

翔は後ろのドアを蹴飛ばし、マシンガンをぶちかました

アル「このフェラーリただのフェラーリと思うなよ!」

アルがボタンを押すと、後ろから機関銃とミサイルが出てきて、撃った

犯人3「うああああ!?!」

数分後:

ジン「すまん翔」

翔「アンタもいい加減に仕事中に競馬聞くの止めるや(笑)」

ジン「これが楽しみなんや」

翔「はあ...ダメなおっさんだ」

ジン「そういえば、北郷は逃げられた」

翔「俺のミスすか？」

ジン「いや、アイツはもともと逃げるつもりだったみたいだ」

翔「あの少女は？」

ジン「話を聞いたら家に帰すつもりだ」

翔「何かあったら連絡してくれ」

翔は探偵事務所に帰ったがこの後、衝撃を受ける事を知らなかった…

探偵事務所

アル「だから知らねって」

「???」「父上なら分かるはずだ！」

アル「だからな…」

翔「どうしたアル？」

アル「ああ翔帰ったんだ」

翔「何があった？」

アル「この女がバカな事言っただ」

「???」「だから違っって…」

翔「あの何すか？・・・」

翔と女は顔を見た

翔と女「「ああゝ！？」」

翔「お前さっきの！？」

愛紗「お前はさっきの探偵！」

アル「よくみたらさっきの捕まってた女」

翔と愛紗「「今気づく！？」」

アル「まあ、気にすんな」

翔は愛紗から話を聞いた…

愛紗「と言っわけなのですが」

翔「・・・」

アル「おやっさんの娘…」

愛紗「それで父上を訪ねに来たのだが・・・」

翔「おやっさんは…」

アル「おやっさん、まだ帰って来ないんだ」

翔「ああ……」

愛紗「父上は帰って来ないなら、私はここに住む」

翔「うん……はあ!？」

アル「ああ……えっ!？」

愛紗「では改めてよろしくお願いいたします」

翔とアル「「ウソだろ!？」」

こうして翔達は新たなメンバー、愛紗を迎えていったのであった……

つづく?・・・

3万アクセス記念！ 番外編 もし翔達が？？だったら・・・探偵編（後書き）

作者「いや〜面白かった」

翔「悪くないな」

アル「しかし、あの車は・・・」

作者「いやフェラーリがカッコいいからさ」

翔「あれ300キロ越えるだろ」

作者「いやこのフェラーリは、マッハ3ぐらいまで・・・」

翔「普通死ぬだろ」

アル「涼しいからええやん」

翔「えっ!？」

アル「さて、作者よ次の予定は？」

作者「本編は蜀に向かう途中の話だ」

アル「番外編もまたメンバーが揃えば出来るんだろ」

作者「しかも予定ではロボットを出すぜ」

アル「さて次回をお楽しみ」

翔「・・・お楽しみ」

作者「翔、出れなかったから嫌なんだろ（笑）」

翔「殺す！」

作者「ギヤアアア!?」

第十六話 新たな仲間、そして・・・（前書き）

今回は短く、グダグダです

第十六話 新たな仲間、そして・・・

翔達は、呉を発ち、蜀と言う国に向かっているのだが・・・

翔「まだかよ」

アル「このへんのはずだけど・・・」

ジン「地図だとこのあたりですね」

翔「確かにそうだな」

アル「んー分からん」

ジン「迷いましたね」

翔「迷ってしまった」

アル「迷った」

翔とアルとジン「・・・どうしよう」「」

翔「うーん」

ジン「木の棒が倒れた方向に向かうのは？」

アル「前にやって迷った」

翔「風を頼りに・・・」

アル「旅人じゃねえだろ」

全員「うーん・・・」

その時

???「おい、その者」

翔「俺？」

???「そう、お主らじゃ」

全員「・・・？」

呼ばれた方に向かうと・・・

???「お主らは何者だ？」

翔「俺は黒宮翔、アンタは？」

桔梗「ワシは巖願、こっちは魏延じゃ」

焰耶「よろしく」

翔「こちらこそよろしく」

焰耶「お前らみたいな素人と行きたく無いが」

桔梗「これ、焰耶！何を言っただ！」

焰耶「しかし、桔梗様！」

翔「なあ、俺を素人って言いやがったな？」

焰耶「ああ言っただぞ」

翔「戦っても無い奴に素人って言っるのはね・・・」

焰耶「コイツ！」

焰耶は持った剣で翔に殴りかかってきたが：

翔「甘いな」

翔は、天空を装備した状態で剣を掴み、折った

バキンッ！

焰耶「そんな！？」

翔「甘いんだよ、動きが単純だな」

翔は焰耶の剣の欠片を捨てると、腹に一発殴った

ドゴッ！

焰耶は怯んだが、翔に立ち向かおうとしたが・・・

翔「お前の負けだ、魏延」

焰耶「くっ！」

焰耶は仕方なく負けを認めた

ジン「翔、強いな」

翔「まあ、慣れてない剣で勝てると思うな」

桔梗「何じゃと!？」

焰耶「・・・いつ気づいた」

翔「まず、アンタの剣の振り方は斬るって言うより、潰すようなやり方だ」

焰耶「ああそうだ・・・」

翔「なあ厳願、魏延に何か打撃系の武器をやってくれ」

桔梗「よかろう、ワシはあと一つ武器があるから大丈夫じゃ」

そんなこと話してると・・・

ノッポ「よお兄ちゃん、身につけてる物を置いてきな」

チビ「そうだ置いて・・・」

翔「知るか」

翔が蹴った先にはノッポの股間だった・・・

キーン！

ノッポ「ギヤアアアッス！？」

アル「今は痛そうだな・・・」

ジン「じゃあ、俺もやってみよう！」

アル「おいおい・・・」

そして翔達は、襲ってきた盗賊を返り討ちにしたが・・・

翔「暇だし、人間ハンマー投げやろうぜ」

ノッポ「えっ！？」

ジン「じゃあ負けたら、ゴチで」

チビ「はっ？」

アル「仕方ない・・・」

デブ「うえっ！？」

翔はノッポ、ジンはチビ、アルはデブの両足を持ち投げた・・・

翔「おゝ、飛ぶねえ」

翔達は盗賊を撃退？した

桔梗「しかし黒宮よ、さっきの賊から蜀の場所を聞けば良かったの
と思うじゃが？」

翔「・・・忘れてた」

ジン「翔、飛んで行った方が早いと思うが」

翔「あつ、その手があつた」

アル「早めに気づけよ！？」

アルは龍の状態になつたが・・・

焰耶「化け物！？」

桔梗「黒宮！お主は何者だ！？」

翔「あのな、俺最初に言つたぜ、モンスター狩りの死神 黒宮翔だ
つて」

アル「言つて無いぞ翔」

ジン「翔が言つて無いよ」

翔「俺原因！？」

こんな感じで翔達は、アルの背中に乗り蜀に向かった・・・

後、翔は厳願と魏延の真名を教えてもらった・・・

第十六話 新たな仲間、そして・・・（後書き）

翔「ついに桔梗と焰耶が仲間か・・・」

作者「これから本格的になるかな・・・多分」

アル「次の話は？」

作者「一応、反董卓軍の後の話だ」

翔「あのロリっ娘が出るな」

作者「そして、予想外の事が!？」

全員「お楽しみ!」

第十七話 イメージが違う時だってある（前書き）

更新速度が遅くてすみません

第十七話 イメージが違う時だってある

蜀 セイラヒ
青山

桃香「翔さん遅いねえ」

愛紗「翔殿・・・」

鈴々「愛紗は翔お兄ちゃんの事になると心配性なのだ」

愛紗「そ、そんなこと無い！」

紫苑「あらあら、愛紗ちゃん照れなくて良いのに」

愛紗「紫苑まで！」

愛紗が皆から言われまくっていると・・・

ボレアス「あつ翔だ！」

愛紗「何っ！？」

愛紗が外に見てみると・・・

愛紗「どこにいるんだ翔殿は？」

ボレアス「愛紗さん、ウソに決まってるじゃないですか（笑）」

愛紗「・・・」

愛紗は無言で青竜刀の刃をボレアスに向けた・・・

ボレアス「あれ、愛紗さん何で僕に青竜刀を・・・」

愛紗「・・・覚悟」

ボレアス「ヒイイイ！？お助け〜！」

蜀の皆さんは翔が帰ってくるのを待ってた・・・

一方・・・

翔「もう着くだろ」

アル「あれじゃない？」

青山 入り口

翔「オッス」

門番「誰だ！・・・って黒宮將軍じゃないですか！？」

翔「すまん、皆は？」

門番「皆さま、城にいますか呼びましようか？」

翔「いや良いや、サプライズしてやるから」

門番「分かりました、後ろの方は？」

翔「えっ！と・・・あのおば「翔、わかっておるじゃろっな？」いや、銀髪のお姉さんの方が厳願、黒い髪で筋肉で体が出来てる方が魏延だ」

焰耶「黒宮、覚悟は出来てるだろっな・・・」

翔「何や脳筋？」

焰耶「ぜってえ、殺す！」

翔達は、愛紗達がいるところまで行った・・・

青山 城

ギー・・・

翔「ただいま戻りました」

愛紗「翔殿！」

愛紗は翔に抱き付いた

翔「ちょ愛紗！？離れろって・・・」

愛紗「一週間も帰って来ないから心配したんだぞ！」

翔「いや、短いだろ！？」

愛紗「もう心配だった・・・」

桃香「翔さんお帰りなさい」

翔「桃香、愛紗を離すの手伝って」

桃香「しばらくしたら離れますよ（笑）」

翔「見捨てるかよ!？」

紫苑「あらあら、お盛んですね」

翔「紫苑も赤くなるなよ!」

璃々「わーい、璃々も〜!」

帰って来たら手荒い? 迎えだった

その後・・・

桃香「で、桔梗さんと焰耶ちゃんはここに仕えるんですか?」

桔梗「出来たらそうしたいのじゃが」

桃香「これからよろしくお願いいたします!」

焰耶「と、桃香様のためなら何でもします!」

桃香「あ、あはは・・・ありがとう（笑）」

蒲公英「えっーまた脳筋が増えるのー?」

焰耶「キサマみたいなチビよりマシだ」

翔「だけど、俺には負けたな（笑）」

焰耶「黒宮、覚悟は出来てるだろうな？」

翔「かかってこいよ」

物騒な会話をしてると・・・

一刀「あつ翔、帰ってたんだ」

翔「よう種馬、ハーレム生活はどうだった？」

一刀「た、種馬って・・・」

翔「剣の腕より、口説く技術が高いからな」

一刀「酷いよ翔！」

その時・・・

????「ご主人様、お茶の用意が出来ました」

一刀「月、ありがとう」

桃香「月ちゃんありがとう」

ズズー

全員「はあ…」

翔「コイツ誰!？」

月「えっーと…」

詠「コイツ、モンスター狩りの死神!？」

アル「この子どつかで見たことあるな…」

翔「無いだろ」

月「私は董卓です」

翔「…えっ?」

翔とアルとジン「えっー!？」

翔「お前が董卓!？」

月「へう」

翔達は月を見て思った事…

翔とアルとジン「これが美少女の萌えか!？」

その後…

翔「コイツは呂布で、こっちは華雄、でそっちは陳宮か」

月「私と詠ちゃんは真名で良いですよ」

詠「でも月、この人が死神？」

月「分かんないけど、恋ちゃんが大丈夫って」

恋「・・・翔、優しい」

セキト「ワン！」

翔「セキト、くすぐったいって（笑）」

詠「まあ恋とセキトがなつくなら大丈夫だろうけど」

愛紗（翔殿は動物になつく…と言う事はあれだ！）

愛紗は一体何を閃いたか分からないがまあええだろ

第十七話 イメージが違う時だってある（後書き）

翔「作者、何を悩んでる？」

作者「いや、この小説に会う曲を考えてるんだ」

翔「普通に恋姫無双、乙女大乱のオープニングだろ」

アル「いや、真ゲッターロボ、世界最後の日のHEATSだな」

作者「いや、獣装機攻ダンクーガノヴァの鳥の歌だ」

翔「ロボット系が多いな」

この討論はしばらく続いた・・・

ジン「さて、次回は予想外な事が起きます」

次回はハチミツ好きのあの子とバスガイド！？が登場

ジン「お楽しみ！」

第十八話 バスガイドとハチミツ少女（前書き）

感想をお願いいたします

第十八話 バスガイドとハチミツ少女

青山 会議室

翔「そういえば、月達は何でここに来たんだ？」
月「それは・・・」

詠「僕たちが悪者扱いされたから」

ジン「何で悪者！？」

アル「・・・バカな奴が月達を利用したんだ」

翔「自分の地位と名誉か」

詠「うん・・・」

霞「せやでえ」

翔「利用した奴は？」

桃香「それが・・・」

翔は話を聞いて驚いた

翔「袁術がやった！？」

アル「まあ金持ちの考えは分からんからな」

愛紗「敵は我々の三倍です」

翔「そうか、愛紗何してるんだ？」

愛紗「し、翔殿が動物になつくから・・・」

翔「・・・」

愛紗はネコミミを付けて会議に出てた：

翔（さつきから皆が笑ってた訳だ・・・）

しかし翔はあえて気にしなかった、気にしたら負けだと

翔「・・・久々にあばれますか」

と言う訳で

翔「袁術潰しに行こう！」

アル「さらつと恐ろしい事言ってるな」

翔達は袁術のいる雨都^{エント}へ・・・

雨都 城内

美羽「七乃〜ハチミツくれたも〜」

七乃「はい美羽様」

美羽は至福のハチミツを楽しんでいると・・・

兵士1「申し上げます！」

美羽「何事じゃ！？」

袁術軍兵士1「し、死神の旗が！」

美羽「死神の旗？」

七乃「美羽様、それって噂のモンスター狩りの死神じゃないですか！？」

美羽「七乃くわらは死にたく無いのじゃ！」

七乃「大丈夫ですよ、お嬢様は私が守りますから」

一方・・・

翔「さて、袁術がどこにいるか吐いてもらうか」

袁術軍兵士2「お、俺は知らねえ」

翔「・・・じゃあ死ね」

グシャ

翔は袁術軍の兵士の頭を潰した

アル「翔、服が血だらけだぞ（笑）」

翔「だって月達をあんな風にさせた奴は許せねえじゃん」

アル「まあそうだが見つけたらどうするんだ？」

翔「まだ決まってるねえ」

袁術軍兵士3「死ねえ！！」

翔「黙れ」

ズザッ！

翔「つたく、雑魚は失せろ」

雨都 城内

七乃「誰もいませんね・・・」

美羽「七乃ゝわらわは怖いのじゃ」

七乃「大丈夫ですよ」

しかし七乃は不安だった・・・

七乃（でも相手は死神・・・勝てる訳ない・・・）

美羽「七乃ゝハチミツが飲みたいのじゃ」

七乃「お嬢様、今は無理ですよ」

美羽「いやじゃ、わらは今飲みたいのじゃ！」

美羽はハチミツが飲めなくて不満だった・・・

その時！

翔「なあ、アンタが袁術か？」

美羽「そうじゃ、わらが袁術じゃ！どうだ、スゴいじゃろ」

翔「じゃあ、死んでくれ無いかな？」

美羽「なぜわらが？」

翔「てめえらのせいで俺の仲間が酷い目にあっただよ」

七乃「お嬢様、下がってください！」

七乃は持ってた剣で翔に襲いかかったが

翔「甘いな」

翔はその剣を素手で掴んだ

七乃「あつ、ああ・・・」

美羽「な、七乃」

翔「俺はてめえらみたいなバ力を潰す死神なんだよ！」

七乃「お、お嬢様だけは…」

美羽「いや、七乃は助けて欲しいのじゃ」

七乃「いや、美羽様だけでも！」

美羽「七乃！」

七乃「美羽様！」

美羽「七乃！」

七乃「美羽様！」

美羽「七乃！」

七乃「美羽様！」

美羽「わらわじゃ！」

七乃「私です！」

美羽「わらわじゃ！」

七乃「私です！」

美羽「わらわじゃ！」

七乃「私です！」

美羽「わらわじゃ！」

七乃「私です！」

翔「そろそろ黙れ」

翔は懷から麻醉銃Mk22を取り出し、七乃と美羽の頭に撃った

翔は七乃と美羽を拘束し、連れ帰った

青山 城内

ピシッ！

翔「さあ吐けよ！」

七乃「だ、だから私は何も知りませんって！」

翔「あんま知らばつてると・・・」

バサッ

翔はナイフを取り出すと、美羽と七乃の服を切り裂いた

美羽「パイ！？」

七乃「キヤア！？」

愛紗「翔殿！？」

翔「さっさ吐けよ、死にたくねえだろ？」

アル「翔、やりすぎだ！」

翔「これくらいやんねえと吐かないからな」

七乃「だから何も・・・」

ダーン！

翔は壁に向かって銃を撃った

美羽「七乃、もう嫌じゃ」

七乃「もう、許して・・・」

その時！

ジン「翔、ヤバい事が起きた！」

翔「何だ？」

ジン「月達をあんな風にした奴は別にいる！」

翔「相手は？」

ジン「・・・クロノスだ」

翔「！？」

その後・・・

翔「悪かったな美羽、七乃」

美羽「翔はわらわの部下じゃから大丈夫なのじゃ」

翔「ハイハイ」

すると七乃は・・・

七乃「翔さんは私達を守ってくれますよね？」

翔「まあ仲間だしな」

七乃「嬉しい！」

七乃は胸で翔の腕を挟み抱き付いた

翔「な、七乃！？」

七乃「私、翔さんの事好きになっちゃうかも」

翔「あ、あはは・・・（笑）」

その後ろで

愛紗「・・・」

星「このままだと取られるぞ？」

愛紗「そのくらいわかってる・・・」

星「まあ、どう動くかお主しだいだな」

愛紗（翔殿…）

第十八話 バスガイドとハチミツ少女（後書き）

作者「鬼畜だな翔」

翔「アンタがそうしたんだろ」

作者「まあいいじゃん」

翔「で、次回は？」

作者「次はついにクロノスの幹部が登場！」

翔「ちなみに何人くらい？」

作者「・・・まだ決まって無い」

翔「おい！」

作者「さて、夏にオースの映画があるな」

翔「そらした」

作者「予告見たけど、コブカワ二何かすごいじゃん」

翔「実際、好きなのは？」

作者「ラトラーターかプティラかタジャトルだな」

翔「ガタキリバとシャウタは？」

作者「ガタキリバとシャウタはカッコいいけど、何か足りないって感じがするな」

翔「サゴーズは？」

作者「出た回数が少ない」

翔「・・・遠回しに影薄いって言ってねえか？」

作者「いや、無いよ？」

翔「じゃあ、ダブルだったら？」

作者「うーん、ファングジョーカーがゴールドエクストリームがジョーカーだな」

翔「いや、アクセルは？」

作者「トライアルは良いけど、アクセルブースターはねえ？」

翔「もう、呆れた・・・」

番外編2 電波少年と死神（前書き）

今回は「流星のロックマン 転生者の絆物語」の作者、松上様とコラボです！

翔「かなり時間かったな」

作者「それだけ大変だったんだよ」

ボレアス「僕出てない・・・」

作者「いろいろあったんだよ」

ではどうぞ

番外編2 電波少年と死神

とある世界・・・

諒はスバル達と出かけていたのだが…

諒「フォルテ、ジャミングーみたいな反応があった所ってこの辺？」

フォルテ「ああそうだが・・・」

しかし諒が来た所には何もなかった

諒「やっぱり、勘違いかな？」

フォルテ「分かん」

しかしその時フォルテは何かを感じた

フォルテ「諒、何か来るぞ！」

諒達の前に現れたのは…

全身が黒服の男だった…

???「フツハハハハ！」

フォルテ「諒、急いで電波変換しろ！」

諒「ああ！」

諒はいつものように電波変換をしようとした

諒「電波変換！新井諒、オン・エア！」

しかし・・・

諒「電波変換が出来ない！」

フォルテ「何！？」

????「フツハハハハ！私の力で封じたのだよ」

フォルテ「くっ！！」

諒「どうしようフォルテ！？」

その時！

????「私は全ての世界を手に入れるためにやってきた」

諒「なんだって！？」

????「そして貴様らは邪魔だ」

と言うと諒の回りの空間が歪み始めた

フォルテ「何か嫌な予感がする…」

諒「僕もだよフォルテ」

そして…

「???」消え失せる!」

一瞬で諒はどこかに飛ばされた…

「???」さて次はお前だ、黒宮翔…」

「???」はフードを脱いだ

その顔は翔そっくりであるが髪と目の色が赤だった…

「???」私は神なのだ」

そういうと???は消えた…

セイラヒ
青山 近くの森

諒「痛てて…フォルテここどこ?」

フォルテ「…分から無い」

諒「えっ!？」

フォルテ「しかも時代が違う」

諒「・・・えっ？」

諒は辺りを見たが木しか無かった

諒「とりあえず、森を出てみようよ」

フォルテ「分かった」

諒達は森を出ることにした：

青山 接見の間

一刀「森に流星？」

愛紗「ええそっらしいです」

愛紗達はさっき商人から森に流星が落ちたことを聞いた

桃香「天の国の人かな？」

一刀「わかんないけど…って翔は？」

愛紗「翔殿は魚を釣りに行きました」

一刀「・・・えっ？」

一方・・・

翔「うおっしゃあ！！魚を釣るぜえ！！」

翔は釣りカエルで釣りをしていた

アル「翔、大丈夫か？」

ジン「釣れるのが分かるんだけど…」

アル「アイツどうするつもりだ？」

アル達は翔の心配をしてると…

ザバーン！！

ガノトトス「ギャアアアオン！！」

翔「来た大物！！」

アル「絶対違っただろ！」

翔は背中から天翔を…

翔「あれ、天翔どうしたわけ？」

ジン「自分で置いてきたじゃない」

翔「・・・そうだった」

翔がそんな心配してると…

ガノトトス「ギヤアアア!!」

翔達にプレスをぶつけた

アル「危ねえ!?!」

翔「アル、諒からもらった奴あるよな?」

アル「あー、あつたな」

アルは翔に鏡花水月を渡した

翔「よっしゃあああ!今日は刺身だ!」

アルとジン「……えっ?(はあ?)」「」

翔はその後ガノトトスを捕まえて帰ってから活け作りにしようとした:

青山 野原

諒「フォルテ、ここどこ?」

フォルテ「だから分からん」

諒「誰かいらないのか?」

諒が歩いていると・・・

愛紗「貴様何者だ？」

諒「僕は新井諒です、貴方は？」

愛紗「私か？私は関羽だ」

諒「関羽さん、黒宮翔って人を知りませんか？」

てかこの子は自分がタイムワープした事に気づかないのか？

愛紗「翔殿を知ってるのか？」

諒「はい、前に会ったことがありまして」フォルテ「おい諒、不審に思わないのか？」

諒「何が？」

フォルテ「俺たち、多分タイムワープしたんだぞ」

諒「・・・おお！スゲー！」

フォルテ「感動してる場合じゃねえだろ」

気づくの遅い！！

愛紗「諒殿、行きますよ」

諒「分かりました」

諒と愛紗は城に戻った…

青山 接見の間

諒「フォルテ、僕なにかしたかな？」

フォルテ「・・・分からねえよ」

諒は美少女と美女達に囲まれてた…

桃香「ねえ、ご主人様あの人も天の国の人だよね？」

一刀「うゝんどうなのかな？見たことない服だし」

その時！

ダン！

翔「今戻った」

愛紗「あつ翔殿！」

ムギユ！

愛紗は翔に抱きついた

翔「あ、愛紗！？」

愛紗「翔殿帰りが遅かったじゃないですか…」

翔「まあ良いじゃねえか」

そして…

諒「あつ翔さん久しぶりです」

翔「・・・諒」

諒「ばつちり見てましたよ」

翔「・・・忘れてくれ」

諒「多分です」

その後翔は諒に愛紗達を紹介した

翔「諒、何でお前ら来たんだ？」

諒「僕はいきなり飛ばされたんだ」

翔「はっ？」

その後・・・

翔「つまり、誰かが飛ばしたと？」

諒「そう！」

翔「・・・・・・・・」

翔は戸惑っていたが大体予測は出来てた

アル「多分クロノスだな」

翔「クロノスだな」

諒「クロノス？」

翔「ああ俺を消そうとしてる組織だ」

フォルテ「お前危険な敵と戦ってたな」

翔「まあ転生する前に原因は有るんだがな……」

諒「何やってたんです？」

翔「裏世界（暗殺）の仕事だ」

諒「あはは……ヤバいじゃないですか!？」

アル「お前のパートナーのツツコミ遅いな（笑）」

フォルテ「笑い事かそれ？」

和やかに包まれていたその時！

愛紗「翔殿！大変です！」

翔「どうした、またモンスターか？」

愛紗「い、いえ二本足の赤い牛が暴れていると・・・」

翔「牛？」

諒（あつ、それオックスファイアだ）

フォルテ（アイツまずいぞ）

翔「じゃあその牛を捕まえて焼きますか、魚もいるし」

アル「そうだな」

諒（電波変換出来ないしどうしよう…）

フォルテ（斬月と千本桜で良いでしょ）

諒（後、翔さんに氷輪丸を渡さないと）

諒は電波変換出来ないけど、とりあえず斬月と千本桜で戦う事にした

輪（・・・オックスファイア生きてられるかな？）

フォルテ（死んでしまったらサヨナラだな（笑））

翔「諒、何してる？行くぞ」

諒「翔さん待って下さい」

諒は翔の後を追いかけたが…

青山 城の広場

諒「・・・翔さんどうやって行くんですか？」

翔「どうやってって、コイツ」

翔が指差した先にはアルがいた

諒「嫌々、翔さん無理ですよ」

翔「まあ見とけ」

するとアルはモンスター形態に戻った：

諒「・・・・・・・・」

フォルテ「・・・諒、現実だよな？」

諒「・・・うん」

翔「何やってんだ？早く行くぞ」

諒は翔達に度肝を抜かれた：

愛紗「翔殿、また私を忘れた！」

まあ貴方じゃ無理でしょ

どっかの村

オックスファイアは暴れていた

しかし誰も傷つかないように暴れていた

オックス「フツハハハハ！赤い物は全部壊す！」

翔「おい、牛野郎」

オックス「誰が牛野郎だあ！？ああん！？」

翔「ケンカなめてんのかコラッ！？」

諒「翔さんコイツを使っして下さい」

諒は翔に氷輪丸を渡した

翔「・・・よし、鏡花水月と一緒に使うか」

オックス「おい、ちょ待て!？」

翔「牛肉に捌いてやるぜ牛野郎!」

オックス「俺電波だから効かねえ…」

ズバッ!

翔「いけ、氷輪丸!」

翔は氷輪丸の力を使い氷の竜を作り襲わせた

諒「フォルテ、千本桜を!」

フォルテ「分かった」

諒は千本桜を取ると

諒「舞い散れ千本桜!!」

オックスファイアの回りに千本桜が咲き、全て刺さり、そして氷の竜が襲った…

オックス「もう、勘弁してくれ」

翔「さつさとどっか消え失せろ」

そしてオックスファイアが消えた直後何かが現れた

「???」「まったく使えない」

翔「誰だ？」

諒「翔さんそいつファントムブラックです！」

翔「ファントムブラック？ふざけた名前だな」

ファントム「ふざけた名前だと！？この私が！？」

アル「いちいちうるせえな」

アルはガトリングをかましたが…

ファントム「フッハハハハ！私には当たらんよ」

アル「何！？」

ファントム「私は幽霊みたいな者なのでな」

アル「ちっ！」

翔「幽霊？ならこっちも幽霊いや、幻覚を作ってやるよ！」

翔は鏡花水月に力を込めると斬りかかったが…

ファントム「こんな子供騙しに！」

スバン！

しかし…

翔「諒今だ!!」

諒「OKです翔さん!」

ファントム「何!?!」

諒「たあああああつ!」

ファントムブラックは後ろから諒が攻撃することが分からなかった

そして…

ズバッ!

ファントム「ぐうううう!?!」

翔「諒行くぞ!」

しかし…

ファントム「残念だが勝負はドローだ」

ボン!

翔「ちっ!」

諒「翔さんこれは？」

翔「街の当主の権利と釣ってきた魚」ガソトス

諒「魚じゃないですよね・・・」

翔「冷凍便で送るわ」

すると神様が現れた

神様「さて、ゲートを開くぞ」

ギューーン・・・

翔「ごめんな、あんまり観光出来なくて」

諒「いえ、観光出来ましたし楽しかったですよ」

翔「また来いよう！」

諒「さよなら翔さん元気でー！」

ガタン…

翔「さて、ジジイ土産をくれ」

神様「バカかお主は」

翔「あんた神様か？」

こうして、諒は翔の世界を満喫出来たのであった…

諒達の世界

ピンポーン

店員「ちわゝ宅配です」

諒「あつ、はい」

諒がもらったダンボールの中には・・・

諒「これって…」

フォルテ「翔が使ってた武器一種だな」

天翔（太刀）と天空（籠手）と月影（脚籠）と何故かロケットランチャーだった…

諒「ロケットランチャーって使い道あるかな？」

フォルテ「さあ…ん？あれは？」

諒「あつ、ウイスキーとテキーラとハイボールだ」

フォルテ「アイツも酒は飲むんだな」

そして…

諒へ…

ガノトス
魚は庭に届くからな（笑）

諒「……………」

諒はこの後、大変な目にあつたのであつた…

番外編2 電波少年と死神（後書き）

翔「あのジジイ（神様）何もくれなかった!」

作者「お前はいつたい何を貰う気?」

翔「なにって、酒専用の冷蔵庫」

作者「・・・女だと思った」

翔「お前じゃあるまいし」

作者「いや、お前だろ」

翔「最近リア充だからってふざけんなよ」

カチャ

作者「お前だつて愛紗に抱きつかれたからって図に乗るなよ」

カチャ

ジン「どうせやるなら、持つところで殴り会えば良いじゃん」

作者と翔「まずはお前だ!」

その後・・・

翔「さて作者、諒が奴は?」

作者「奴は鍵だ」

翔「今はそれだけか…」

次回はクロノス幹部戦！

オリキャラ登場！

第十九話 三人目の転生者と再開（前書き）

遅れてすみません

第十九話 三人目の転生者と再開

呉ルート

海砂 広間

雪蓮「で、何があつたのかしら？」

呉軍兵士1「先ほど、魏から手紙が・・・」

冥林「雪蓮はどう思う？」

雪蓮「・・・分からないわ」

勇「・・・曹操の考え方が違う」

勇達は悩んでた

それは、魏から来た手紙は呉に攻撃をするとの内容だったからだ・・・

雪蓮「どういうこと？」

勇「多分あの後、魏に転生者が現れて天下統一に乗り出して、まず僕達を倒す気だよ」

冥林「その後、劉備のいる蜀か」

勇達はこの後もしばらく考え続けた・・・

魏ルート

砂背 庶務室

華林「ふう…」

コンコン

華林「誰？」

???「俺だ、華林」

華林「入って良いわよ」

ガチャ…

華林のいる庶務室に来たのは両目の色が違う男だった

華林「あら、統魔じゃないどうしたの？」

統魔「いや、呉に攻めるのは俺とシャルダだけで行けると思うが」

華林「多分、黒宮もやってくると予測してるからね」

統魔「・・・さすが霸王」

そこへ・・・

春蘭「華林様、戦闘部隊についてですが・・・」

頭の悪い春蘭がやってきた
ちなみに眼帯済み

華林「あら春蘭、前にもいったはずよ「俺を前面に出すんだろ？」
・・・よく分かったわね」

統魔「まあ、人使いの荒い華林の事だし」

春蘭「九条、お前華林様になんて無礼を!？」

華林「春蘭落ち着きなさい」

秋蘭「そうだぞ姉者」

更にやって来たのは、バカで眼帯を着けてる春蘭の妹、秋蘭だ
秋蘭の方が姉だと思っが…

秋蘭「我らは、九条がいるからある程度行けたんだぞ」

統魔「俺はある程度扱いが」

シャルダ「でも俺達がいなかったら雑魚だったじゃん」

そして来たのはシャルダだった

クショウトウマ
九条統魔

モデル ガンダム00（セカンドシーズン）のアレルヤ

武器 二双流のツインセイバー（ビームサーベル）

ちなみにこれは二つのビームサーベルを一つにして真ん中に取っ手が来て、上と下の所にビームが出てくる仕組みである

彼は沢山の人を殺害し、警察に追われてる所に謎の光が彼を包み気がついたらこの世界に来て華林達の仲間に…

彼は殺害も有るが前科があり、いろいろとやっているがそれはまたどこかで…

翔とライバルであり親友であり戦友である（暗殺関係）

別名、鬼神
オニガミ

シャルダ

統魔のパートナー

武器 一双流のツインセイバー

モンスター クシャルダオラ

人間形態　ガンダム00のリボنز

統魔に従順であり、人間の状態でも強い

春蘭「シャルダ、貴様！」

シャキン…

春蘭はどっからか剣を取りだしシャルダ（人間形態）に襲いかかったが…

シャルダ「俺に勝てると思う？」

シャルダはビームサーベル一つで春蘭の剣を止めた

蜀ルート

青山　会議室

翔「・・・」

アル「・・・」

ジン「・・・」

ボレアス「・・・」

四人はにらみあっていた…

そして…

ボレアス「スリーカード」

ジン「スリーカード」

アル「ツーパー」

翔「フルハウス」

アル「またお前かよ」

ジン「翔、強すぎ」

ボレアス「仕方ないじゃん、はい酒代」

翔「お前らもボレアスみたいに潔くしやがれ」

アル「ハイハイ…」

ドン！

愛紗「しゅうどーの」

そこには青龍刀を持った笑顔の愛紗がいたが

翔「愛紗、仕事はしたからな」

愛紗「警備は？」

翔「後、十勝したら行く」

愛紗「殴りますよ」

愛紗の後ろに般若がいた事に翔は気づいていた…

その時！

蜀軍兵士「申し上げます黒宮將軍！」

翔「何があつた？」

蜀軍兵士「く、クロノス軍が攻めて来ました！」

翔「なに！？」

アル「ポーカーしてる場合じゃねえな」

ジン「急がないと！」

翔達は急いで準備してた…

呉ルート 海砂 廃墟の砦

勇「・・・」

勇はハンドガンを手に、雪蓮達ともにクロノスを探してた…

勇「どうだレウス？」

レウス「・・・ダメだ、いない」

雪蓮「でもいたらしいわよ」

冥林「戻るとするか」

勇「そうだね」

その時！

????「勇、久しぶり！」

そこにいたのは紫色の髪の少女と…

????「水谷久しぶりだな」

????「久しぶり！」

顔に傷がある男と茶色の髪の男だった…

勇「マナミ真実！？それにトモキ友光、リョウマ竜馬、何でいるの！？」

アオゾラマナミ
青空真実

姿 ガンダム00のアニユー

武器 十文字槍

コウスキトモキ
紅月友光

姿 ガンダム00のラッセ

武器 ガンランス

アカツキリョウマ
暁竜馬

姿 ガンダム00のロックオン

武器 ライトボウガン

真実「それはもちろん…」

真実はそういうと勇に十文字槍を突きつけた…

真実「勇を元の世界に戻すためだよ」勇「真実！どうして！？」
そして…

友光「勇、動けば彼女が死ぬぞ」

雪蓮「勇！」

竜馬「そつだぜ水谷、言うことを聞きな」

冥林「水谷逃げろ！」

勇「くっ！」

勇（どうすれば良いんだ！）

勇は雪蓮と冥林を人質に取られ迷っていたが：

レウス「俺達を忘れるなあああ！」

上からレウスがブレスを真実達に放った！

ズガン！

真実「くっ！」

竜馬「青空、どうする！？」

真実「勇ちゃんをお持ち帰り、じゃなくて連れて帰るまでは！」

友光「相変わらずお前の勇に対する執着心は深いな……」

真実「毎日ストーカーしてたし！」

竜馬「犯罪者予備軍じゃねえか！？」

勇を毎日ストーカーしてる真実はもはや変人に近い…

魏ルート

砂背 近くの村

統魔「何があつた？」

凧「隊長！」

そこにいたのは親衛隊の凧、紗和、真桜だった

紗和「この村が襲撃を受けたなの」

真桜「でも襲撃した奴が見つからないんや」

統魔「とりあえず救出が先だ、急げ！」

その時！

????「させないよ統魔！」

「???」「させないよ!」

そこに現れたのは…茶髪の子とピンクの髪の少女達だった…

統魔「^{アヤ}絢、^{ナミ}波なんでお前らが?」

^{フジバヤシ}
藤林 絢

姿 ガンダム00のフェルト

武器 体術

^{フジバヤシ}
藤林 波

姿 ガンダム00のクリス

武器 ツインガンブレード

絢「なんでって言われてもねえ…」

波「うーん…統魔が好きだから?」

統魔「何で疑問だよ?」

真桜「それより統魔、早よした方がええちゃう?」

沙和「そうなの~!」

波「お子さま達は黙ってた方が良いと思うよ」

凧「キサマ、覚悟は出来てるだろうな」

凧は波に殴りかかったが…

ガキン！

凧「なに！？」

波「単純過ぎるんだよ」

波が凧を斬りかかったが…

ダーン！！

統魔「まったく、世話にかかる部下がいる上司は大変だな！」

全員「統魔！」「隊長！」「」

蜀ルート

青山 近くの村

翔「ここだな」

愛紗「ええ、そうです」

翔は近くの村に来ていたが…

翔「・・・なあ愛紗、血の匂いがしないか？」

愛紗「・・・確かにしますね」

彼らが回りを警戒していると…

ガキン！

翔「・・・何者だ！！」

？？？「久しぶりだね黒宮」

そこにいたのは…

翔「桜夜！？」

桜夜「久しぶりだね、黒宮」

翔「何でお前が？」

桜夜「もちろん、翔を片付けるためだよ」

翔「なんだと！？」

そして…

翔「夏菜？元？」

彼の前に現れたのは昔、いなくなった幼なじみの夏菜と元だった…

トダナツナ
戸田夏菜

姿 ロザリオとバンパイアの萌香

武器 トマホーク

シライゲン
白井元

姿 TOSのラタトスクの騎士のエミル

武器 マグナム（リボルバー）

キドサクヤ
黄戸桜夜

姿 TOVのユーリ

武器 サーベル

翔「なあ、なんか言えよ」

翔が夏菜？に言ったその時！

夏菜「・・・・・・・・」

ブーン！！

翔「止める夏菜！俺がわからないのか！？」

夏菜は翔にトマホークを振り回して襲ってきた！

翔「どういう事だ！？」

桜夜「操り人形だよ」

翔「何だと！？」

そして…

愛紗「翔殿！！」

翔「愛紗！？」

カチャ…

桜夜「黒宮、それ以上動けば彼女が死ぬよ？」

桜夜は元のマグナムを愛紗の頭に突きつけた…

翔「・・・何が目的だ？」

桜夜「黒宮を消すことに決まってるじゃない」

第十九話 三人目の転生者と再開（後書き）

翔「・・・作者」

紅夜「なんだ翔？」

翔「遅れた理由」

紅夜「環姉とつむぎ先輩にはまって遅くなった（笑）」

翔「天誅！」

ゴキッ！？

第二十話 再開 呉ルート（前書き）

今回は三ルートありますなので後書きは最後に書きます
ではどうぞ

第二十話 再開 呉ルート

勇「レウス、どうやってこの場所が？」

勇は雪蓮の縄をナイフで切りながらレウスに聞いた

レウス「シンクロを使えば分かるんだよ」

レウス（人間状態）は冥林の縄を噛みちぎりながら答えた

勇「ずいぶん、器用なんだな」

ブチッ！

雪蓮「やっと戦えられるわ」

雪蓮は南海霸王を鞘から抜き構えた

勇「レウスは雪蓮と冥林のガードを！」

レウス「お前は？」

レウスはツインハンドガンを構えながら、聞いた

勇「僕はもちろん戦うよ！」

すると勇はディエンドドライバーを構えて・・・

勇「変身！」

カメンライド！

ディエンド！

勇は仮面ライダーディエンドに変身した

真実「・・・勇ちゃん」

勇「これが僕の答えだ・・・」

真実「・・・わかった、竜馬君、友光君」

竜馬「良いのか？」

真実「うん・・・」

友光「やるぞ竜馬」

真実はドレイクゼクターを呼び出し、竜馬はバースドライダー、友光はオーズドライバーを腰にセットし

三人「変身！」

へ・ん・し・ん

タカ！トラ！バッタ！タ・ト・バ、タ・ト・バ、タ・ト・バ！

カポーン！

真実はドレイクゼクターのしっぽを引っ張ると装甲に隙間ができた

真実「キャストオフ！」

キャストオフ

ズカーン！

チェンジ・ドレイク！

真実「勇ちゃん、ごめんね」

すると勇は二枚のカードを取り出した

勇「友光と竜馬を頼むよ！」

カメンライド！

ゼロノス！

デルタ！

仮面ライダーゼロノスと仮面ライダーデルタを呼び出し、勇は真実と戦うことにした

勇「さて真実、やるしかないのか？」

真実「やるしかないんだよ」

しばらく二人は動かなかった…

勇と真実（さて、勇（真実）はどう動く？）

先に動いたのは勇だった

勇「確実に当てる！」

アタックライド！

ブラスト！

ダダダダダ！

しかし・・・

真実「当たってると思うてるの？」

クロックアップ！

真実はクロックアップをし、勇の前から消えた

勇「どこに消えた！？」

すると・・・

プテラ！

トリケラ！

ティラノ！

プティラノザウルス！

友光はタトバからプティラノにコンボチェンジした！

友光「来い！メダガブリュー！」

友光が地面に手を突っ込むとメダガブリューが出てきた

クレーンアーム！

ドリルアーム！

シヨベルアーム！

キャタピラレッグ！

カッターウイング！

ブレストキャノン！

竜馬はバース・デイに変わった

勇「これはヤバいかも…」

さすがの勇も少し焦っていた

雪蓮「勇！後ろ！！」

勇「しまった！？」

勇は雪蓮からアドバースをもらったが・・・

プ・ト・ティラノひっさっつ！

友光はメダガブリューをバズーカモードに変形させた

セルバースト！

竜馬はブレストキャノンを勇に合わせた

そして・・・

真実「勇ちゃん、ごめんね」

ライダーシューティング！

真実「さよなら・・・」

三人の砲撃が勇を直撃した！

雪蓮「勇！」

勇はさっきの砲撃で変身解除され、倒れた

勇「雪…蓮…逃げ…て…」

雪蓮「よくも勇を！」

しかし・・・

真実「勇ちゃんに伝えてくれる？」「またかかって来い」って

すると三人は消えた…

雪蓮「冥林！早く勇を！」

冥林「ああ、わかつてる」

勇は薄れてく意識の中こう思った…

勇「戦わなきゃいけないのかな…」

そこで勇の意識は消えた…

第二十話 再開 魏ルート

統魔「さて、絢、波、お前らのボスに言っとけ、俺がぶちのめす、と」

波「なにを言ってるの統魔？」

統魔「あん？だからお前らと戦うんだよ」

統魔は腰にロストドライバーを装着するとメモリを取り出し・・・

エターナル！

統魔「変身！」

統魔はかつて風都を地獄に陥れた仮面ライダーエターナルになった

統魔「さあ、地獄を楽しみな！」

波「どうする絢？」

絢「決まってるじゃない」

波はイクサベルトを装着し、イクサナックルを取り出し、絢はカリスラウザーを装着し、ハートのエースを手にし、

絢と波「変身！」

チェンジ！

フィ・ス・ト・オ・ン

波は名護さんが変身した仮面ライダーイクサ（バーストモード）に変身し、絢はハートの仮面ライダーカリスに変身した

波「じゃあ、統魔を無理やり連れて帰るから」

波はイクサカリバー（ガンモード）を統魔に撃ったが…

統魔「銃には銃だ!!」

トリガー！

トリガーメモリをエターナルエッジに差し込み、白いトリガーマグナム エターマグナムに変換させ対応した

ダダダダ！

統魔「波、いい加減諦めろよ!」

すると…

トルネード！

ギョォーン！

統魔「くっ！絢か!」

絢「統魔も二人じゃ無理でしょ?」

その時！

凧「モウコエンシュウ猛虎炎襲！」

凧が上から蹴り技を繰り出した

真桜「くらえや！」

右から真桜がドリルを繰り出し

沙和「おりゃあなの！」

左から沙和が剣技を繰り出した

絢「ざんねんだね」

リフレクト！

絢の回りにバリアを発生させた

統魔「凧！沙和！真桜！」

統魔は三人を心配したが…

波「どこ向いてるの？」

バツ・シャ・ー・マ・グ・ナ・ム

波はバツシャーマグナムとイクサカリバー（ソードモード）で統魔

に近づき切り裂き、ゼロ距離で撃った

ドゴーン！

統魔「ぐはっ！？」

統魔は吹っ飛ばされた…

統魔「まだだ…」

しかし…

波「統魔、ごめんね」

イ・ク・サ・カ・リ・バ・ー・ラ・イ・ズ・アツ・プ

波は統魔にとどめを刺そうとしたが…

???「統魔！」

ズサッ！

???「うつ…」

統魔「て、天和？」

天和「あはは…統魔が無事なら…」

統魔「クソ！なんで庇ったんだよ！？」

リカバリー！

統魔は天和にリカバリーメモリを傷口に刺し回復させた

波「ああゝあなんでうまくいかないのかな？」

その時、統魔の中で何かがキレた…

統魔「波、お前でも許せねえ事だつてあるんだよ」

統魔は様々なメモリを挿した

ブースター！

ヒート！

ユニコーン！

バンパイア！

エターナルの背中にブースターが付き、バンパイア的能力で身体能力を上げユニコーンとヒートでさらに威力を上げた

波「と、統魔？」

統魔「覚悟・・・」

エターナル！マキシマムドライブ！

その時、エターナルの体が青い炎に包まれた！

統魔「はあああああ！」

波「なら、こっちだって！」

波が反撃をしようとしたが…

統魔「バーニングベルベツト！」

エターナルがブースターで高く飛び、ライダーキックをした…

ドゴーン！

波「と、統魔、マジ過ぎだよ」

統魔「……………」

バタツ…

全員「えっ？」

統魔はメモリの力を使いすぎて倒れた…

そして…

華林「あなた達、助けに来たよ！」

凧と沙和と真桜「華林様！」

秋蘭「凧達は、天和と統魔を連れて退却しろ！」

凧と真桜と沙和「御意！」

凧達は統魔と天和を連れて退却したが…

華林「さて、あなた達が統魔を連れて帰る事で何をするつもり？」

絢「あら、ツルペタチビドリルには関係無いね」

華林「……………」

波「そういうこと（笑）」

すると二人はどこかに逃げた…

華林「…………私は無いわけじゃない！」

第二十話 再開 蜀ルート

翔「俺を消すこと？」

桜夜「それが俺の任務だから」

翔「・・・まさか!？」

桜夜「そう、俺たちはクロノスなんだよ」

翔「じゃあ、中学の時誘拐した奴らって!？」

桜夜「あれは赤義の計画だ」

翔「赤義？赤義姫か!？」

桜夜「あつ、知ってるんだ」

翔「バカかお前？あんなに有名なお嬢様ならいやでも分かる」

翔は中学の時、赤義と同じクラスだったのだ

翔「しかしなんでアイツが？」

桜夜「翔に恨みがあるみたいだよ」

そして・・・

????「あつ!翔ちゃん!」

そこにいたのは黄色い髪の少女だった

翔「あ、和^{アマネ}、なんでお前が!？」

和「だってえゝ翔ちゃんがいなきゃ死んじゃう」

翔「……………」

和「それに私は翔ちゃんの彼女だから」

アオハラアマネ
青原和

姿 ガンダムSEED DESTINYのステラ

武器 アームキャノン

翔の元彼女

翔とは両思いで学校では有名なカップルだったが……

桜夜「さて、感動の再会はこの辺で」

愛紗「翔殿!しっかりして下さい!」

翔(くそ、夏菜や元達もだがまさか和までいるなんて!)

翔は思うように動けなく焦っていた

翔 いったいどうすれば……

すると…

和「ねえ、翔ちゃん」

翔「なんだよ」

和「私と元の世界に帰らない？」

その場にいた奴ら全員驚いた

桜夜「待て、青原！目的が違うんちゃうか！？」

和「あんな女の目的なんて知らないよ！」

桜夜「・・・まあそれはええか…」

すると翔は鼻で和達を笑った

翔「俺はこの世界に残る」

和「えっ？」

翔は天翔を鞘から抜き和に斬りかかって来た

ガキン！

和はアームキャノンで天翔の斬撃を止めた

和「翔ちゃん、帰りたくないの？」

翔「確かに帰りたいけど、やらなきゃいけない事があるからな！」

すると翔はダブルドライバーを腰に装着し、メモリを取り出した

ヒート！

メタル！

翔「変身！」

翔は仮面ライダーダブルHM^{ヒートメタル}に変身した

和「・・・分かった翔ちゃんがそう言うなら仕方ない」

アクセル！

和「変・・・身！」

和はもう一人の風都の仮面ライダーアクセルに変身した

和「さあ、振りきるよ！」

ブォンブォーン！

翔「来いよ！」

和「はっ！」

ガキーン！

翔のメタルシャフトと和のエンジンブレードがぶつかりあった！

翔「なかなかやるな」

和「翔ちゃんも！」

しかし・・・

桜夜「俺、忘れて無いか？」

愛紗「私もです」

桜夜「ええ」とアンタも翔に無視られてんのか？」

愛紗「あなたもですか？」

敵同士なのに忘れられてる二人

愛紗「私一応ヒロインですよ！？」

ヒロインなのに番が少くない愛紗

翔「くそ、メモリを変えるか」

すると翔はメモリを変えた

ルナ！

メタル！

翔はH^{ヒートメタル}MからL^{ルナメタル}Mに変わった

翔「はっ！」

パキン！

翔は和に攻撃したつもりなのだが・・・

翔「えっ？」

翔は間違っ て和を拘束してしまっ た

和「やっぱり、翔ちゃんはあんな馬のしっぽみたいな髪的女より私だよな？」

翔「待て、何故そうなる！？」

翔が必死に弁解する中・・・

愛紗「もう、我慢の限界です・・・」

すると愛紗は青竜刀を持って翔と和を殺そうとした！

愛紗「仲良く逝ってきて下さい！」

翔「文字違っ し！てか、まとめて殺すつもり！？」

和「翔ちゃん、仲良く逝こっ うよ」

翔「死にたくねえーーーーー！」

翔は間一髪の所で避けた

和「よつと」

すると和は翔に投げキスをし、言った

和「またね翔ちゃん！」

和達はどこかに消えた…

この後翔は愛紗に半殺しされた

第二十話 再開 蜀ルート（後書き）

翔「今回は疲れた」

作者「俺も」

翔「さて、次回は・・・作者？」

勇「逃げたね」

翔「・・・・・・・・」

勇「翔もどこかに行ってしまったので代わりに僕がやります」

転生者三人の前に現れた友人達

彼らは戦わなきゃいけないのか？

次回もお楽しみに

第二十一話 黒宮翔の憂鬱？（前書き）

遅れてすみません

第二十一話 黒宮翔の憂鬱？

青山 中庭

翔「はあ…」

翔は中庭の池の魚を見て思った

翔（魚・・・いやシーフードが食いたい）

翔が考えてると…

愛紗「翔殿」

愛紗がやって来た

翔「ん？ああ愛紗かどうした？」

愛紗「いえ、何も無いですがなんとなくです、翔殿は？」

翔「俺？俺は考え事」

愛紗（やっぱり、この前の友人の事でしょうか…）

翔（愛紗なんかシーフード食いたいって言ったら怒られそうだな）

なぜか、考えてる方向がいつも逆になる二人

するとそこに・・・

ジン「翔〜！」

璃々「翔お兄ちゃん！愛紗さん！」

ジンの背中に乗った璃々がやって来た

ジン「よっと」

璃々「愛紗さん、あそぼ〜」

璃々と愛紗が去った所でジンが話を切り出した

ジン「翔、東の方で赤い化け蟹が出たそうだ」

翔「化け蟹？・・・ダイミヨウか」

そして翔は気づいた

翔（ダイミヨウ＝蟹＝シーフード！つまり食べる！）

何を思ったか翔はダイミヨウを狩ろうと思った

ジン「で、翔どう「狩るぞ！」・・・はあ？」

翔「ダイミヨウ狩りに行くぞ！」

ジン「・・・珍しく行く気だね」

という訳で一狩り行こうとしたが…

愛紗「私も行きます」

翔「なんで？」

愛紗「翔殿が心配だからです」

なぜか愛紗も行きたいと言うので今回は仕方なくオーケーを出した

青山 城内 本屋

朱里「雛里ちゃん！八百一の本見つかって良かったね」

雛里「そうだね朱里ちゃん！」

朱里と雛里は八百一の本を買っていたが：

翔「いやあ、諸葛亮と法統がこんな本を買ってるなんて知らなかったな」

朱里と雛里「えっ！？」

朱里と雛里が後ろを振り返ってみると・・・

翔「これは没収しようか」

翔は朱里と雛里が買った八百一の本を奪った
しかもジャンプしても届かない高さに・・・

朱里「か、返して下さい！」

雛里「あわわわわ！」

しかし…

ボコッ！

翔「痛っ！？」

愛紗「翔殿、悪ふざけは止めてください」

愛紗が翔を殴り、本を取ったのだが…

愛紗「・・・朱里、雛里」

朱里と雛里「・・・はい」

愛紗「バレずに買いなさい」

この後、朱里と雛里は無事に帰れたらしいが・・・

神成 カシナリ 近くの森

翔「この森か？」

アル「聞いた話だけだな」

ジン「本当にいるの？」

ボレアス「たまには僕を「はい、削除」作者さん酷いよ!？」

すると愛紗が

愛紗「翔殿、あれって・・・」

愛紗が指を指した先には

翔「ん？ああ、ブロスの頭だな」

アル「翔、今なんて言った？」

翔「だから、ブロスの頭だなんて・・・」

その時、翔とアルとジンは気づいた

三人「あれは、ダイミヨウだな・・・」

そして・・・

翔「アル！クロスチェンジだ!」

アル「了解」

翔はクロスアルティメットになったが：

アル（勝てるのか？）

翔（勝たなきゃ飯が食えない！）

アル（……………呆れた）

翔は接近をダイミヨウにかけたが…

ガキン！

ダイミヨウ「ギョォー！！」

プシュー！

ダイミヨウが翔に向かって水ブレスを放った！

翔「しまった！？」

ドゴーン！

アル（クソ、砂が…）

翔コイツはめんどくさいな…

アル（ああ、しかしジンじゃ無理だろ）

翔（じゃあ僕っ子か？）

アル（するしか無いだろ）

翔は解除するとボレヤスを呼び出した

ボレアス「翔、行くよ！」

翔「ちゃちゃと決める！」

翔とボレアス「クロスチエエエエエンジン！」

そして・・・

翔とボレヤス「クロスボレアス！」

クロスボレアス

翔がミラボレヤスの力を借りた形態

背中の翼で空を飛び、二丁拳銃で戦う

翔「ボレアス、行くぞ！」

ボレアス「了解！」

翔は大空に飛び、ダイミヨウの上から撃ちまくった！

ダダダダダ！

ダイミヨウ「ギューン！？」

アル「オラオラオラア！！」

アル（人間形態）はガトリングを撃ちまくった

ジン「サンダーシュート！」

ジンは頭の角から雷を放った！

翔「ボレアス！決めるぞ！」

ボレアス（オーケー！）

翔はダイミヨウに向かって急降下し・・・

翔「当たれえええ！」

ダダダダダ！

そして・・・

翔「必殺！」

ボレアス「バスター！」

翔とボレアス「キイイイック！」

右足にスピードを駆け突っ込んだ！

ダイミヨウ「ギュオーン！？」

ズガンー！！

翔「よっしゃあああ！」

青山 調理部屋

愛紗「翔殿、一体何を作ってるんですか？」

翔「ん？エビチリだけど」

愛紗「・・・？」

数分後・・・

桃香「翔さんが作ったんですか！？」

翔「そうだが」

鈴々「おいしいのだ！」

愛紗「おいしいです」

しかし・・・

一刀「なんで俺には飯が無いんだ？」

翔「はっ？種馬に飯は無い！」

そして翔は大盛りの白飯に真ん中に割り箸を挿したのを出した

一刀「・・・翔」

翔「まだ飯は残ってるからな」

この後一刀は翔に土下座して飯をもらったが、種馬の名は認めるし
が無かった…

第二十二話 呉の逆襲

砂背 中庭

統魔「・・・」

統魔は空を眺めてた…

天和「統魔〜！」

統魔「天和か」

天和が統魔の近くに寄ると・・・

統魔「何の用だ？」

天和「なんも無いよ、統魔は？」

統魔「俺か？俺は・・・」

統魔はしばらく考えて言った…

統魔「空をみてた…」

統魔（何か嫌な予感がする…）

青山 庶務室

翔（なんだこの感じは…）

翔は何か不思議な感じを感じてた

翔「何が起きるんだ…？」

海砂 会議室

勇「今日？」

雪蓮「母さんの墓参りに行かない？」

勇は雪蓮に誘われていたが…

勇（何も無かったよね…）

とりあえず、勇は雪蓮と一緒に墓参りに行くことにした・・・

砂背 会議室

統魔「呉を攻めこむ？」

華林「そうよ」

統魔は華林から作戦の説明を聞いていたが…

統魔（・・・なんだ、この感覚は？）

統魔はさっきもあつた謎の感覚にまた襲われた…

統魔（うっ！頭が…）

統魔「すまん、少し休んでくる」

華林「統魔！」

桂花「あんた、作戦は！？」

統魔は無視して中庭に行った

中庭

統魔（マズイ、クラクラしてきた…）

その時

???（戦え・・・）

統魔の頭の中に直接何かが流れてきた

統魔（お前は何者だ！）???（私が何者かを知ってどうする？）

統魔

???（黒宮と戦えるぞ）

統魔（ホントか！？）

統魔はライバル、翔と戦えると分かると謎の声を信じ、呉に向かった

????

姫「ふう……」

大地「どうした、赤義？」

姫「私たち以外に何者かがこの世界にいる気がするんだよ」

大地「黒宮達じゃなくて？」

姫「ええ……」

姫は翔達以外の存在を感じていた……

南樹^{ナンキ}

冥林「よく来たな」

華林「あなた達の大將は？」

冥林「もうすぐ来る」

華林「あら、ずいぶんのんびりなのね」

海砂 墓場

雪蓮「ここよ」

雪蓮は回りは林だらけの所に墓石が一つ建てられていた

勇「ここって…！」

そこにあつたのは…

雪蓮「私の母、孫堅が眠ってる墓よ」

勇「・・・」

雪蓮「私、いつか母上のようにこの国を守りたい」

雪蓮は空を見ながら呟いた…

勇「・・・雪蓮なら出来るよ」

雪蓮「勇…」

その時

ガザッ

林の中から三人ぐらい弓を構えた兵士が現れ雪蓮に向かって放った！

勇（マズイ！）

勇は急いで雪蓮を押し・・・

グサッ！！

勇「うつー！！」

勇は心臓や肺に刺さっては無いものの、右肩に刺さってしまった

雪蓮「勇ー！！」

雪蓮は勇に急いで近づいたが…

勇「雪蓮！明命達を！」

このあと、勇は雪蓮を暗殺しようとした兵士を捕まえたが…

勇「ぐっ！？」

勇に刺さった矢は毒矢だったため、簡単には治らなかった

雪蓮「勇！大丈夫！？」

勇「大丈夫だよ…この・・・くらい」

勇は立ち上がろうとしたが…

勇「ぐっ!?!」

亞莎「まだ動かさないで下さい勇さま!?!」

勇「でも・・・」

そこに…

翔「勇、お前は休んでろ」

勇「翔!」

やってきたのは翔だった

翔「レウスから話は聞いた」

勇「ごめん、翔」

翔「左じゃ撃てないから仕方ないだろ」

雪蓮（よくも勇を傷つけてくれたわね曹操）

雪蓮は大口叩いてる華林にキレた

そして、呉の逆襲が始まる…

第二十三話 死神と鬼神（前書き）

どうにか更新できた！

第二十三話 死神と鬼神

南樹

雪蓮「ずいぶん機嫌が良いね、曹操」

華林「あら、遅刻してきた人の言うセリフかしら？」

雪蓮（まあ、良いわ…その余裕な顔をすぐに真っ青にしてあげる）

雪蓮はそんな事を考えながら華林に伝えた

雪蓮「あなたの兵士がずいぶん私の領内でよく暴れたからね…」

すると華林は・・・

華林「・・・なにを言ってるのあなたは？」

雪蓮「まあいいわ、奴らをここに！」

すると思春が捕まえた兵士を連れてきた

華林「!？」

雪蓮「・・・」

ザシュ!!

雪蓮は無言で兵士の首を斬り、華林に・・・いや全ての兵士に聞こえるように叫んだ

雪蓮「聞け呉の兵士達よ！！コイツらは私を暗殺しようと企てた、しかしみんなも知ってる勇が私を庇ったが、彼は今、毒矢の影響で瀕死の状態である、我らの呉の民を傷つけ私を暗殺しようとした奴らに我ら呉の怒りをぶつけよ！！」

華林「誰だ！孫策を暗殺しようとしたのは！！」

桂花「か、華林さま・・・」

風「で、どうします？」

華林「今すぐ撤退よ！！」

桂花「しかし華林さま、今が攻め時では・・・？」

華林「じゃあ、あなたは私に汚れた戦をしと言っの！？」

華林は苛立っていた・・・まさかこんなことになるとは誰も思っていなかった

一方…

翔「・・・来たか」

統魔「久しぶりだな、黒宮」

今、死神と鬼神が再開し戦いの火蓋が切られた

翔「何年ぶりだ、会ったのは？」

翔は天翔を構えながら、統魔に聞くと…

統魔「さあな？」

統魔もツインセイバーを構えながら答えた

ヒュー…

蓮華「黒宮はなぜ動かないの！？」

蓮華は長い髪を風に揺らがせながら、思春に聞いた

思春「動かないじゃないです蓮華様」

蓮華「じゃあ何なの？」

祭「お互い、様子を見てるのじゃ」

三人は翔と統魔の戦いを見てた…

そして…

翔「行くぞ！！」

先に動いたのは翔だった

翔は統魔に近づき、斬りかかった！

統魔「俺に剣の雨を！」

すると統魔は翔の攻撃を回避しながら出来たスキに斬った

統魔「アマツルギ雨剣」

翔は避けきれず、脇腹を切られたが…

翔「今のは効いたぜ」

統魔「見切ったお前もなかなかだな」

翔「そりゃどうも！！」

翔はジャンプし、空中から統魔に斬りかかった！

翔「テックウハザン天空刃斬！」

統魔は避けきれず、かなり斬られたが…

統魔「こんな傷…！」

リカバリー！

統魔はリカバリーメモリを傷口に刺した

翔「なるほど、だが治るには時間がかかるはずだ…！」

しかし…

ガキン！！

翔「なに！？」

統魔「あのなあ、俺は二刀流のツインセイバー使いなんだよ…！」

統魔はツインセイバーを両手に持ち振り回した

統魔「行くぜえ…！」

統魔は翔の攻撃をふさぎながら、反撃した

翔（マズイ、このままだと…！？）

翔が考えをしてる間に天翔が飛ばされた！

統魔「終わりだあ！！」

しかし・・・

翔「ブラッド・デイ！！」

翔は天空と月影を使うかけ技、ブラッド・デイで防いだ

統魔「甘いな」

統魔は攻撃を仕掛けようとしたが：

翔「ジエエエツト・・・」

統魔「しまっ・・・」

翔「マグナム！！」

翔は構えて、パンチを繰り出すとわずかに遅れて相手に衝撃を放つ技、ジエツトマグナムを統魔の傷口に放った

統魔「ぐはっ！？」

しかし・・・

翔「がはっ！？」

統魔「おれが簡単にやられると思ったか？」

翔「少し思ってたがな…」

翔の体には大量のナイフが刺さっていた

翔「勝負は預けないか？・・・」

統魔「良いぜ…」

こうして翔と統魔の戦いは終わった…

魏軍の本陣

天和（ああ～もう！早く帰って来てよ統魔！）

天和は統魔が無事か心配してたが…

地和「大丈夫だって姉さん、統魔は帰って来るって」

お気楽そつに三姉妹の二女、地和は答えたが…

天和「簡単に答えないでよ」

すると…

ガサッ

誰かが入ってきた

蓮和「はぁ…はぁ…」

入ってきたのは三姉妹の三女、人和だった…

天和「どうしたの？」

人和「はぁ…はぁ…聞いて姉さん、統魔が…」

天和「えっ…」

天和はそれを聞いて統魔の所に向かった…

海砂 部屋

翔「ああー！痛い痛い！もう少し優しく出来ないの？」

冥林「あんなに刺さってるならこのぐらい痛くないだろ？」

翔「いや、痛いから！？」

翔は冥林に治療を頼んでたが…

翔（自分でやれば良かった）

かなり後悔してた

翔「じゃあ俺は戻るな」

勇「助かったよ翔」

雪蓮「劉備によろしくね」

冥林「しっかり治せよ」

翔は見送られながら蜀に帰ったが・・・

和「翔ちゃんみっけ」

和が遠くから見てたことに気づいていなかったが・・・

和「さて、追いかけてよ」

ディアブロッサに和は乗り翔のあとを追跡した

第二十三話 死神と鬼神（後書き）

翔「どうも、ナイフが刺さっても死なない翔です」

勇「じゃあ次は頭を銃で撃ち抜こうかと考えてる勇です！」

翔「ちょっと待て！俺を殺す気か！？」

勇「えー、カンペにそう書いてあるから（棒読み）」

翔「まったく、作者は？」

勇「えっーと・・・」

作者「どうも皆さん作者の紅夜です、今回は星空へ架かる橋を全話見ていて、魔法少女まどか マギカのママさんとはむらを口説こうとしていてお出かけしますのではありません」

勇「・・・って言ってたけど・・・」

翔「・・・」

第二十四話「翔と和」(前書き)

連続更新を頑張ります

第二十四話「翔と和」

海砂 練習場

勇はマトを見つめていた…

勇（ターゲットを撃ち抜く！）

勇は三十メートル先のマトを弓矢で狙い撃った

スパン！

ガッ！

当たったと思ったが…

勇「やっぱり外れるよね」

ど真ん中ではなく、五センチ右にずれた所に当たった

祭「むう、ワシは良いと思うが」

勇「あれじゃダメなんだよ、確実に撃ち抜かないと」

亞莎「そうなんですか？」

勇「そういうものなんだよ」

すると…

穩「旦那様」

穩がやって来た

穩「雪蓮様が呼んでましたよ」

勇「ホント？」

勇は雪蓮の元に向かった

砂背 会議室

魏は、とても重苦しい雰囲気に使われていた…

統魔（さて、華林はどう動くかな？）

稟「華林様、今回の件はどうします？」

華林「どうするも何も謝罪の文を送るに決まってるじゃない」

桂花「なら九条にやらせたらどうですか？」

桂花は統魔を指差しながら言った

統魔（俺は苦情係かよ）

統魔はそう思いつつもあることを思い出した：

統魔（呉を見に行けるチャンスだな）

すると統魔は呉に届けに行くことにした

レキヤマ
暁山

翔はハードボイルダーを走らせていると・・・

ズギューン！！

翔「ちっ！？」

翔はハードボイルダーを横に倒し、つこけた

翔「まったく、誰だよ」

翔が天翔を構えてと・・・

和「翔ちゃん！」

いたのは和だった

翔「和、なんでお前がクロノスにいるんだ」

和「それは・・・」

和は話し出した、自分がなぜクロノスに入ったかを…

和「私は翔ちゃんが消えたあの日、探し回った…必死に探し回したけどいなかった
だから翔ちゃんに聞いたの」

過去 学校

和「姫ちゃん、翔ちゃんはなんでいないの？」

姫「私は知らないわ」

和は姫を壁に追い詰めた

和「ウソだ!!」

姫「私はなんも知らないわ」

和「姫ちゃんが翔ちゃんを知ってるって聞いたもん！」

姫「・・・どこまで知ってるの？」

和「ふえ？」

そのあと和は知ってること全てを話した

姫「・・・わかった」

姫はどこかに電話すると和に言った

姫「今からあなたは普通の日常に戻れないけど、それでも覚悟はある？」

和「翔ちゃんに会えるなら・・・」

現在 暁山

翔「それでお前はクロノスに・・・」

和「姫ちゃんは翔ちゃんをどうするか知らないけど、私は翔ちゃんと一緒に帰りたいだけなの」

翔「だから俺を連れ戻そうと・・・」

和「だから翔ちゃん・・・」

和はアームキャノンを構えた

和「ゴメンね」

ドン！！

海砂 部屋

雪蓮「どうする勇？」

勇「一応対応しようよ、いざと言ったときは僕も出るから」

雪蓮「わかったわ、よろしくね」

海砂 近くの道

統魔はエターボイルダーを走らせていた

統魔（孫策か・・・）

統魔は自分の限界を求めて戦うため様々な強い者と戦うが…

統魔（少しは楽しめると良いが・・・）

ブオオオオオン！！

統魔は少し笑うとエターボイルダーのアクセルを全開にした

暁山 森

翔「・・・なんで撃たなかった？」

和「撃てるわけ無いよ」

翔「和・・・」

その時

???「やっぱり、バカな奴はバカなんだな」

その時、翔の後ろに男がいた

翔「・・・大地」

大地「久しぶりだな翔」

松田大地（マツダ ダイチ）

姿 TOSのクラトス

武器 日本刀

中学の頃、同じクラスだった
剣術は翔と同じぐらい？だが・・・

大地は翔に斬りかかったが：

ガキン！！

翔「相変わらず、お前の剣術は暴力的だな」

大地「徹底的に潰すからな」

翔「そうか」

大地はあるカードデッキを取り出すと腰にVバックルが出てきた

翔「ライダーだと!？」

大地は前で両手をクロスさせ、腕を時計回し、肘を曲げ左手を前に
つきだし、肘を曲げ右手を後ろにして腰を少し落として

大地「変身!」

デッキをバックルに入れた

大地「さて、行くぞ!」

大地は首をゴキゴキって回してから翔に立ち向かった

翔「ここは、龍騎だと良いけど…」

サイクロン!

メタル!

翔はサイクロンメタル(CM)に変身したが

翔「くっ!」

力押しされて負けていたが…

その時!

アクセル！

和「変・・・身！」

和はアクセルに変身した

大地「さっさと決めるか」

ファイナルベント

大地は牙召杖ベノバイザーにファイナルベントのカードを挿した

シュラララ...

どこからかベノスネーカーが現れると大地は宙返りをして

大地「たあああああああ！！！」

ベノクラッシュを翔に喰らわせたが...

大地「逃げたか...」

翔「グハッ!？」

和「翔、大丈夫?」

翔「なんで助けたんだよ?」

和「翔ちゃんが死んだら困るもん」

翔「・・・そうか」

和「じゃあ、私は戻るね」

すると翔は・・・

翔「俺は、お前と戦いたくない!」

翔は和に向かって叫んだが...

和「次あったときは、味方だったらね」

和はディアブロッサに乗り、去っていった...

この後、翔はリボルギャリーを呼び蜀に戻った...

第二十四話「翔と和」（後書き）

翔「作者、生きてるか？」

紅夜「あ、当たり前だバカやろう」

翔「なにをお前は焦って書いてるんだ？」

紅夜「もう少ししたら新たな展開だからな、急いで書いてんだよ！」

翔「珍しい」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2287q/>

真恋姫無双 死神の名を継ぐ者

2011年10月10日02時50分発行